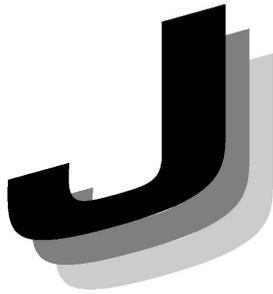




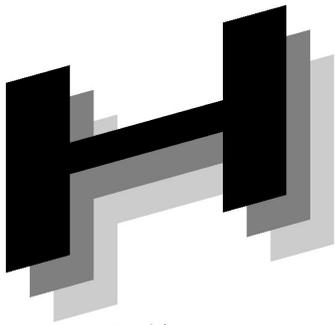
JAHS 技術文書 23-102



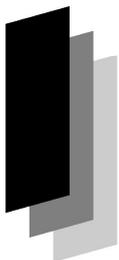
Japanese



Association of



Healthcare



Information



Systems Industry

JAHS ePath 実装ガイド Ver.1.0

2023 年 10 月

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会

医療システム部会 電子カルテ委員会

JAHIS ePath 実装ガイド Ver.1.0

まえがき

電子クリニカルパス標準データモデルの開発と利活用を目的として、2018年度から2020年度にかけて国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）事業「クリニカルパス標準データモデルの開発および利活用(ePath プロジェクト)」が実施された。2021年にはその成果として「ePathのデータ要素と構造に関する仕様書」が日本医療情報学会（JAMI）標準（JAMISDP04）として公開されている。

ePathでは「アウトカム-観察項目-タスク(Outcome-Assessment-Task: OAT)」の組（OATユニット）を基本単位としてパスデータが記述されており、それをもとにePathの構造の記述様式が定義されている。OATユニットには、どこの施設でも設定する最低限必要なアウトカムと観察項目を標準化しセット化した「BOM(Basic Outcome Master)」（日本クリニカルパス学会監修）を採用している。本仕様の普及推進に向けて、電子カルテシステムベンダーにはePathの仕様に準拠した電子クリニカルパスシステムの開発が期待されている。

そこで、一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）では、各電子カルテシステムベンダーが上記のJAMI標準（JAMISDP04）に対応したePathの実装を進める際の参考となる実装ガイドを作成するため、電子カルテ委員会の下に「ePath実装ガイド策定WG」を立ち上げて検討を行い、「JAHIS ePath実装ガイド Ver.1.0」を策定した。検討に当たっては、「ePathのデータ要素と構造に関する仕様書」（Ver.1.0.1）をベースとした。

本ガイドにより、ePathの普及が促進され、電子カルテシステムベンダーの間での相互運用性のある電子クリニカルパスシステムの構築、標準化されたパスのデータの蓄積と解析によるクリニカルパスの最適化、更には医療安全の向上と医療の効率化に多少なりとも貢献ができれば幸いである。

2023年10月

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会
医療システム部会 電子カルテ委員会

<< 告知事項 >>

本規約は関連団体の所属の有無に関わらず、規約の引用を明示することで自由に使用することができるものとします。ただし一部の改変を伴う場合は個々の責任において行い、本規約に準拠する旨を表現することは厳禁するものとします。

本規約ならびに本規約に基づいたシステムの導入・運用についてのあらゆる障害や損害について、本規約作成者は何らの責任を負わないものとします。ただし、関連団体所属の正規の資格者は本規約についての疑義を作成者に申し入れることができ、作成者はこれに誠意をもって協議するものとします。

目 次

1. はじめに	1
2. 主な用語	2
3. クリニカルパスおよび ePath の概要	4
4. 電子クリニカルパスシステムが備えておくべき推奨機能	6
5. ePath メッセージの概要	8
6. ePath のデータ構造と要素の実装	9
6.1. パス識別情報	10
6.2. 医療機関情報	16
6.3. 患者基本情報	20
6.4. 入院情報	26
6.5. パス適用情報	41
6.5.1. パス適用基本情報	41
6.5.2. 病日・イベント情報	47
6.5.2.1. OAT ユニット	51
6.5.2.1.1. OAT ユニット識別	52
6.5.2.1.2. アウトカム	55
6.5.2.1.2.1. 観察項目	62
6.5.2.1.2.1.1. 観察項目実施	68
6.5.2.1.2.1.2. タスク	73
6.5.2.1.2.2. 評価	84
6.5.2.2. 総合評価	89
付録—1. コード体系 OID 一覧	93
付録—2. 参考文献	94
付録—3. 作成者名簿	95

1. はじめに

JAHISePath 実装ガイド Ver.1.0 (以下、「本ガイド」と呼ぶ) は、電子カルテシステムベンダーが、2021年 11 月に JAMI 標準 (JAMISDP04) として公開された「ePath のデータ要素と構造に関する仕様書」(Ver.1.0.1) (以下、「ePath 仕様書」と呼ぶ) に準拠したパスシステムの開発を進める上で、ePath 仕様書を齟齬なく理解するための補助的な役割を担うことを目的にしている。

本ガイドの構成は以下のとおりとなっている。

「2. 主な用語」では、ePath の理解を深めるために、ベンダーによって解釈が異なる恐れのある用語について解説を行っている。

「3. クリニカルパスおよび ePath の概要」では、あらためてクリニカルパスと ePath の概要説明を記載している。

「4. 電子クリニカルパスシステムが備えておくべき推奨機能」では、ePath 仕様書で定義されている「ePath メッセージ」を出力する上で、電子クリニカルパスシステムが備えておくべき推奨機能を表形式でまとめている。なお「ePath メッセージ」を出力する上で必須となる機能については、判別ができるよう表現している。

「5. ePath メッセージ概要」では、クリニカルパスと ePath メッセージの各項目の対応関係を図示することにより、どの項目をどのように出力すればよいかを可視化している。

「6. ePath のデータ構造と要素の実装」は ePath 仕様書の内容に沿って整理されている。実際の実装内容をイメージしながら本ガイドを読み進められる様に、ePath のデータ構造と項目定義を、項目の情報単位で分割し、データ構造と項目定義の説明と具体的な XML 記述例、及びそれを補足する解説の組合せによる構成とした。

なお、ePath データを格納するリポジトリの構造、格納方法やインターフェースについて、本ガイドでは対象範囲外とした。

本ガイドの策定により、各電子カルテシステムベンダーによる ePath の仕様に準拠した電子クリニカルパスシステムの開発が進み、ePath の普及が促進されることを切に願うものである。本ガイドの策定にあたってご指導、ご鞭撻を賜った諸先生方と関係団体の皆様に心より感謝する。特に、日本医療情報学会と日本クリニカルパス学会の合同委員会には、用語やクリニカルパスと ePath の概要等において格別のご指導、ご支援を賜り、深く感謝の意を表す。

2. 主な用語

ePath で使われる主な用語を以下に記載する。なお、クリニカルパスの一般的な用語については「クリニカルパス用語解説集（監修 一般社団法人日本クリニカルパス学会）」を参照のこと。

・ePath

OAT ユニットの基本単位としてパスデータを記述したもので、「ひな型パス」、「施設パス」、「適用後パス」の3種類に分けられる。

ひな型パス	疾患別に定めたパスのひな型。疾患別のパスの原型。
施設パス	「ひな型パス」に施設固有部分を含めたパスで、施設公認のパス。
適用後パス	「施設パス」に患者の個別性部分を加えたもの。患者に適用し、入院日・病日等の日付項目を実日付に展開したパス。

・適用後パスデータ

クリニカルパスを患者に適用した後の、実施データ、評価データが記述された状態、およびデータのことを指す。

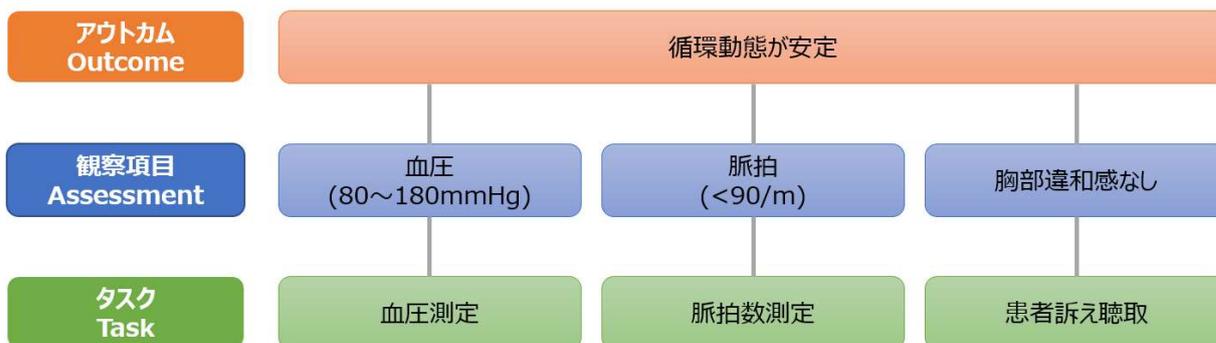
・OAT ユニット (図 2-1)

アウトカム、観察項目、タスクを構成要素とし、ePath を記述する基本構造。

アウトカム (Outcome) : 患者の望ましい状態。例) 循環動態が安定している

観察項目 (Assessment) : アウトカムの評価のための判断基準。例) 血圧 (80~180mmHg)、脈拍 (<90/m)、胸部違和感

タスク (Task) : アウトカム達成のために必要な行為、あるいはアウトカムが達成されたかを確認するための行為。例) 血圧測定、脈拍数測定、患者訴え聴取



・標準クリニカルパスコード、標準クリニカルパス名称、標準クリニカルパスバージョン

日本医療情報学会・日本クリニカルパス学会合同委員会にて定義されたひな型パスを識別するコードと名称、およびバージョン (表 2-1)。

<標準クリニカルパスコードについて 第1版>

https://e-path.jp/img/news/2021/ePath_passcode.pdf

表 2-1 標準クリニカルパスコードに対応するパス名称、ICD10 および K コード*

標準クリニカルパスコード	パス名称	ICD10	K コード
0000000000-0000001-00000	経皮的冠動脈形成術	I208、I256、I252	K5493、K5463、K5481
0000000000-0000002-00000	胸腔鏡視下肺切除術	C341、C343、C780	K514-23、K514-21、K514-22
0000000000-0000003-00000	ロボット支援前立腺切除術	C61	K843-4
0000000000-0000004-00000	経尿道的膀胱腫瘍切除術	C672、C674、C676	K8036
0000000000-0000005-00000	THA	M161、M163、M160	K0821
0000000000-0000006-00000	カテーテルアブレーション	I480、I481、I489	K5951
0000000000-0000007-00000	胃 ESD	C169、C162、C163	K6532、K6531
0000000000-0000008-00000	腹腔鏡下大腸切除術	C182、C20、C187	K719-3

※ePath プロジェクトで運用した 8 パスに対しての ICD10 (主傷病名)、K コード (手術)。

<コード体系 (図 2-2) >

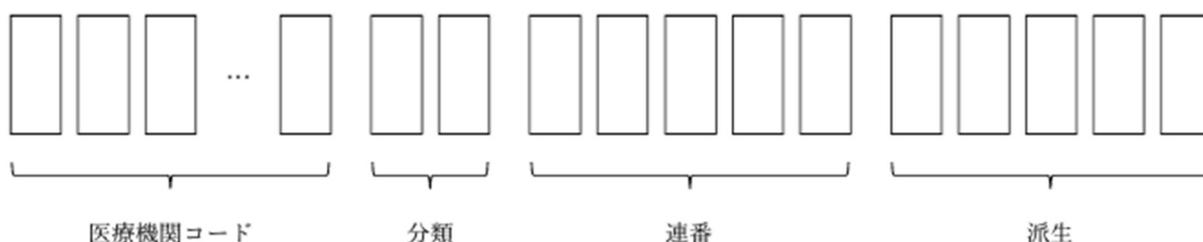


図 2-2 標準クリニカルパスコードのコード体系

- ・医療機関コード：医療機関を識別する厚生局が定める保険医療機関コード (10 桁)。ひな型パスは「0000000000」。
- ・分類：診療科や外科系/内科系、部位など属性を分類するためのコード。現在、未分類 (2 桁)。
- ・連番：パスを作成、運用する際に付与する一意のコード。00001 から採番、英数字も可 (5 桁)。
- ・派生：バージョンなどを管理するコード。00001 から採番、英数字も可 (5 桁)。

<施設で使用する場合の注意点>

- ・「医療機関コード」は、当該の医療機関コードを記載すること。
- ・「派生」は当該の医療機関でのバージョンなど、自由に使用してよい。

<メンテナンス>

日本医療情報学会・日本クリニカルパス学会合同委員会で策定、管理する。

3. クリニカルパスおよび ePath の概要

クリニカルパスとは、「患者状態と診療行為の目標、および評価・記録を含む標準診療計画であり、標準からの偏位（ずれ）を分析することで医療の質を改善する手法」である。患者の入院から退院までの期間における、標準的な診断、治療、ケアの手順を明確にし、医療スタッフ間の連携を促進して医療の質を向上させることを目的としており、その結果として患者の入院期間を短縮し、医療費の削減や患者満足度の向上につなげることができる。

クリニカルパスには、患者の評価、検査、治療、ケアのタイミングや方法、退院後のフォローアップなど、さまざまな要素が含まれているが、疾患や手術の種類によって異なるクリニカルパスが存在し、患者の状態や治療の進行に合わせて適切に適用することが求められるため、医療スタッフの専門的な判断を必要とすることに留意する必要がある。

「クリティカルパス」と呼ばれる工程管理の手法として長く使用され、その後、医療の世界でクリニカルパス（クリティカルパス）として普及してきた。クリニカルパスには、オーバービューパス、日めくり式パス、オールインワンパスの形式がある。オーバービューパスはクリニカルパスの基本的な形式で、横軸に時間軸、縦軸には達成目標（アウトカム）と介入項目（タスク）を並べ、どの日（時間）にどのタスクを実行するかという日程表/予定表の形をとるもので、治療の全体経過（過去と未来）を一覧で表現する。対して日めくり式パスは、オーバービューパスの1列分、すなわち1日分の内容を詳細に閲覧、評価の記録を行うものである。オールインワンパスは1998年に開発され、2000年にはじめて論文発表されたクリニカルパスの名称で、指示簿、看護記録、バイタルチェック表（グラフ）、さらには、医師記録欄、レセプトチェック欄、リハビリや薬剤指導の部門間連絡欄を備えたクリニカルパスである。

クリニカルパスは電子カルテシステムと共に、電子クリニカルパスとして多くの医療機関で導入が進んでいるが、各医療機関やベンダー毎に開発されてきたため、整合性のあるデータが抽出できず、医療機関を跨いだビッグデータとしての取り扱いが困難である。そのため医療の質の改善につなげるためのデータ活用などが十分に行えない、また電子クリニカルパス（データ）の交換や移行が困難、など様々な課題があった。

それらの課題解決のため、日本医療情報学会（JAMI）と日本クリニカルパス学会（JSCP）は、合同委員会^{※1}を立ち上げ、「両会がこれらを共同で解決しなければ、クリニカルパス自体も、また電子カルテ自体もこれ以上の価値を生み出すことができない」と結論づけ、2018年度のAMED（国立研究開発法人 日本医療研究開発機構）事業で、電子クリニカルパス標準データモデルの開発と利活用を目的にePath事業が開始された。

ePath事業では、クリニカルパスにおけるOAT Unit^{※2}の概念確立と電子的整理、電子クリニカルパスの標準データモデルの作成、電子カルテシステムからのデータを変換するインターフェースの開発、データ格納基準の作成とリポジトリの開発、複数の医療機関データの統合解析などに取り組んできた。今後、この基盤を活用して多くの施設、ベンダーでの統合解析が進み、より一層の、医療の質の向上への関与が期待されている。

※1 合同委員会とは

JAMIとJSCPが日本の医療の質向上、医療の安全確保・業務改善に資する目的で、標準化されたクリニカルパスを基盤とした医療情報システムの構築等に向けて情報交換のため常置した委員会。

※2 診療の基本単位としての OAT ユニットとは

OAT は Outcome-Assessment-Task つまりアウトカム（患者目標）— 観察項目（達成の判断基準）— タスク（達成するための仕事）をひとつの単位（Unit）あるいはセットとして表したものである。普段、何気なく行っている医療行為もそれをデータとして取り扱うには、それぞれ目標と判断と仕事の関係性を洗い出してまとめる、つまり概念整理が必要である。特に電子化は融通が利く現実のアナログ世界を、面倒ではあるが論理的な 0 と 1 のデジタル世界に置き換える作業であり、OAT ユニットはその置き換え方の提案でもある。例えば、医療者が血圧を測る作業をする（タスク（Task））場合、単に血圧を記録するためではない。計測した血圧を評価し（観察項目（Assessment））、循環動態が安定しているかどうかを確認するためである（アウトカム（Outcome））。これで一つの診療行為（OAT ユニット）が完結する。クリニカルパスはこうした基本的な診療プロセス、つまり OAT ユニットの時系列に並べ、それに関わる医療スタッフを明確にすることで構成されている。これらの全体像がオーバービューパスとなるが、一日ごとに OAT ユニットのまとめで日めくり式パスとなる。

4. 電子クリニカルパスシステムが備えておくべき推奨機能

ePath 仕様書で定義されている「ePath メッセージ」を出力するにあたっては、前提となる電子クリニカルパスシステムに求められる構造や機能が存在する。ePath に対応するために電子クリニカルパスシステムが備えておくべき推奨機能を表 4-1 に示す。なお、「ePath メッセージ」の出力上、必須となる項目には○を記載している。

表 4-1 ePath に対応するために電子クリニカルパスシステムが備えておくべき推奨機能

No	必須	内容
1	○	施設パスに対して、元となるひな型パスの標準クリニカルパスコード、標準クリニカルパス名称、標準クリニカルパスバージョンが管理できること。
2	○	施設パスは改版ごとのバージョンを保持できること。
3	○	適用後パスにはどのバージョンの施設パスを適用したか保持していること。
4	○	パスの適応基準を登録できること。
5	○	パス適用時に適応基準を満たしているか確認ができること。
6		パスの病日ごとにイベント名を設定できること。
7		パスの病日を「術前」「術後」のように分割してそれぞれイベント名を設定できること。
8	○	病日ごと、または「術前」「術後」のように病日を分割した単位ごとにアウトカムが複数設定できること。
9	○	アウトカムの達成/未達成を判定する観察項目を設定できること。
10	○	観察項目はアウトカムごとに複数設定できること。
11		観察項目には適正值（基準）が設定できること。
12	○	アウトカム、観察項目には日本クリニカルパス学会監修の BOM を採用できること。
13	○	アウトカムー観察項目ータスクの関係性を OAT ユニットとして管理・保持できること。
14	○	アウトカムの達成/未達成を評価できること。

No	必須	内容
15		同じアウトカムに対して、1日に複数回アウトカム評価が入力でき、すべての評価内容を保持していること。
16	○	アウトカムが達成しない状態をバリエーションと判定できること。
17		バリエーションの判定は観察項目にあらかじめ設定された適正值（基準）による自動判定などで簡略化すること。
18		観察項目に1つでも適正值外があればアウトカム未達成（バリエーション）と判定できること。
19		バリエーション発生時にはバリエーション記録を促す仕組みを備えること。
20	○	バリエーション記録はSOAP形式で記録できること。
21		クリティカル・インディケータが識別できること。
22	○	病日ごとの医師の総合評価が登録できること。

5. ePath メッセージの概要

ePath メッセージと、電子クリニカルパスで管理されている患者情報や入院情報、クリニカルパス情報などとの関連を図 5-1 に示す。

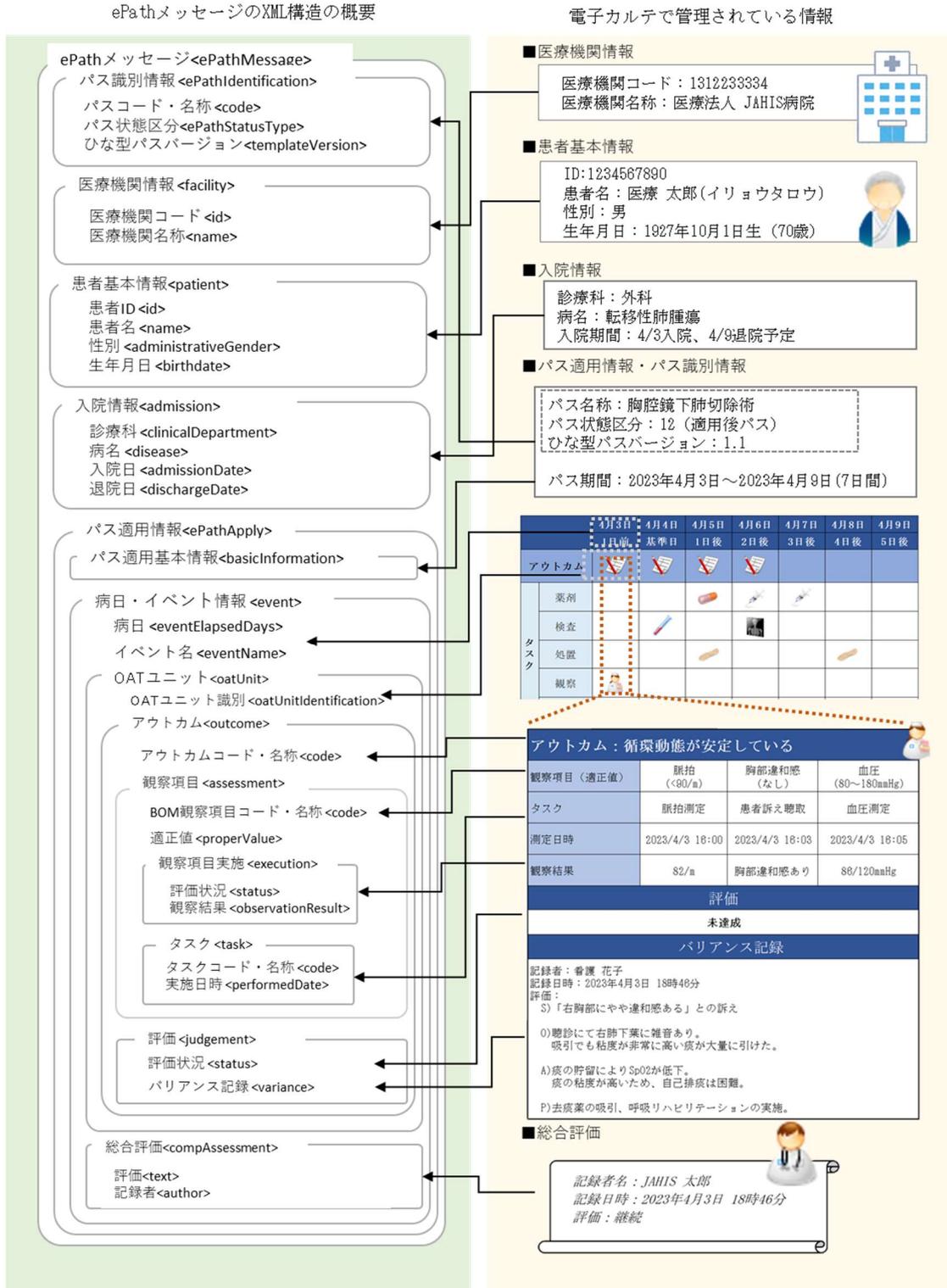


図 5-1 ePath メッセージとクリニカルパスで管理される情報の関連性

6. ePath のデータ構造と要素の実装

本章では ePath 仕様書に基づいた XML ファイル出力を適切に実装するために各要素の補足解説や XML 記述例を示す。これから説明を行う ePath メッセージのデータ構造概要を表 6-1 に示す。

なお、次項以降の各冒頭の表の「説明・備考」欄は、基本的に「ePath 仕様書」のままを転載している。そのため、例えば「付録 1. コード一覧「性別」より設定する。」などの「付録 1. コード一覧「性別」」とは、「ePath 仕様書」の「付録 1」である点に注意すること。

表 6-1 ePath メッセージのデータ構造概要

項番	項目	要素・属性	多重度			備考
			ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ	
1	ePath メッセージ	ePathMessage	1..1	1..1	1..1	ルート
1-1	パス識別情報	ePathIdentification	1..1	1..1	1..1	6.1. パス識別情報 参照
1-2	医療機関情報	facility		1..1	1..1	6.2. 医療機関情報 参照
1-3	患者基本情報	patient			1..1	6.3. 患者基本情報 参照
1-4	入院情報	admission	1..1	1..1	1..1	6.4. 入院情報 参照
1-5	パス適用情報	ePathApply	1..1	1..1	1..1	6.5. パス適用情報 参照
1-5-1	パス適用基本情報	basicInformation	1..1	1..1	1..1	6.5.1. パス適用基本情報 参照
1-5-2	病日・イベント情報	event	1..*	1..*	1..*	6.5.2. 病日・イベント情報 参照
1-5-2-1	病日	eventElapsedDays	1..1	1..1	1..1	
1-5-2-2	イベント名	eventName	0..1	0..1	0..1	
1-5-2-3	OAT ユニット	oatUnit	1..*	1..*	1..*	6.5.2.1. OAT ユニット 参照
1-5-2-4	総合評価	compAssessment			1..1	6.5.2.2. 総合評価 参照

6.1. パス識別情報

(1) パスコード・名称 (項番:1-1-1)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathIdentification						パスを識別する情報
パスコード・名称	code	1..*	1..*	1..*		疾病別ひな型パスを識別するコード 付録 1. コード一覧「標準クリニカルパスコード」より設定する。パスコード・名称・コード体系は、コード一覧「標準クリニカルパスコード」を要素繰り返しの1番目に設定することを必須とし、さらに状態が施設パスとなった以降は、2番目に施設等のローカル内で定めたローカルコード・名称・コード体系を設定することを必須とする。
コード	@code	1..1	1..1	1..1	標準クリニカルパスコードの場合： 例) 0000000000-0000002-00000 ローカルコードの場合： 例) CN15T02103	標準クリニカルパスコード
名称	@displayName	1..1	1..1	1..1	標準クリニカルパスコードの場合： 例) 胸腔鏡視下肺切除術 ローカルコードの場合：	標準クリニカルパス名称

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
					例) 胸腔鏡視下肺切除術 (外科用)	
コード体系	@codeSystem	1..1	1..1	1..1	標準クリニカルパスコードの場合： 固定値) 1.2.392.200250.2.2.50.10 ローカルコードの場合： 例) LOCAL	対応するコード体系 OID。 施設等のローカル内で定めたコード体系の場合、OID ではないローカル内で識別できる独自のシンボル値を設定してもよい。

XML 記述例

<ひな型パスの場合>

```
<code code="0000000000-0000002-00000" displayName="胸腔鏡視下肺切除術" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.50.10"/>
```

<施設パス・適用後パスデータの場合>

```
<code code="1312233334-0000002-00000" displayName="胸腔鏡視下肺切除術" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.50.10"/>
<code code="CN15T02103" displayName="胸腔鏡視下肺切除術 (外科用)" codeSystem="LOCAL"/>
```

解説

ひな型パスを識別する、標準クリニカルパスコードで定義されたコード値、名称、コード体系を設定する。

施設パス、適用後パスデータの場合は、1番目の要素に標準クリニカルパスコードで定義されたコード、名称、コード体系を、2番目以降の要素に施設内で定義したコード、名称、コード体系を設定する。

(2) パス状態区分 (項番:1-1-2)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathIdentification						パスを識別する情報
パス状態区分	ePathStatusType	1..1	1..1	1..1	例) 01	パスの状態を表す区分 付録1. コード一覧「パス状態区分」より設定する。 例) 01: ひな型パス、02: 施設パス、12: 適用後パス

XML 記述例

```
<ePathStatusType>12</ePathStatusType>
```

解説

パス状態区分には、表 6-1-1 (ePath 仕様書の付録1. コード一覧「パス状態区分」と同一) で定義された値を設定する。

表 6-1-1 パス状態区分

値	内容
01	ひな型パス
02	施設パス
12	適用後パス

(3) ひな型パスバージョン (項番:1-1-3)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathIdentification						パスを識別する情報
ひな型パスバージョン	templateVersion	1..1	1..1	1..1	例) 0	ひな型パスのバージョン。X.Yの形式で表す(Xはメジャーバージョン、Yはマイナーバージョン) 当メッセージの「パス状態区分」が「01:ひな型パス」の場合、自身のひな型のバージョンを、それ以外の場合は、継承元のひな型パスのバージョンを設定する。設定値はひな型の管理者が改訂に従い定めること。

XML 記述例

```
<templateVersion>0</templateVersion>
```

解説

ひな型パスのバージョンを設定する。

X.Yの形式で表すこと(Xはメジャーバージョン、Yはマイナーバージョン)。ただし、マイナーバージョン「.Y」は省略してよい。

(4) 施設パスバージョン (項番:1-1-4)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathIdentification						パスを識別する情報
施設パスバージョン	facilityTemplateVersion	出力対象外	1..1	1..1	例) 1	施設パスのバージョン。X.Yの形式で表す(Xはメジャーバージョン、Yはマイナーバージョン) 当メッセージの「パス状態区分」が「02:施設パス」の場合は、自身のバージョンを、それ以外の場合は継承元の施設パスのバージョンを設定する。設定値は施設パスの管理者が改訂に従い定めること。

XML 記述例

```
<facilityTemplateVersion>1</facilityTemplateVersion>
```

解説

施設パスのバージョンを設定する。

X.Yの形式で表すこと(Xはメジャーバージョン、Yはマイナーバージョン)。ただし、マイナーバージョン「.Y」は省略してよい。

(5) XML 記述例 (項番:1-1~1-1-4)

<ひな型パスの場合>

```
<ePathIdentification>
  <code code="0000000000-0000002-00000" displayName="胸腔鏡視下肺切除術" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.50.10"/>
  <ePathStatusType>01</ePathStatusType>
  <templateVersion>0</templateVersion>
</ePathIdentification>
```

<施設パスの場合>

```
<ePathIdentification>
  <code code="1312233334-0000002-00000" displayName="胸腔鏡視下肺切除術" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.50.10"/>
  <code code="CN15T02103" displayName="胸腔鏡視下肺切除術 (外科用)" codeSystem="LOCAL"/>
  <ePathStatusType>02</ePathStatusType>
  <templateVersion>0</templateVersion>
  <facilityTemplateVersion>1</facilityTemplateVersion>
</ePathIdentification>
```

<適用後パスデータの場合>

```
<ePathIdentification>
  <code code="1312233334-0000002-00000" displayName="胸腔鏡視下肺切除術" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.50.10"/>
  <code code="CN15T02103" displayName="胸腔鏡視下肺切除術 (外科用)" codeSystem="LOCAL"/>
  <ePathStatusType>12</ePathStatusType>
  <templateVersion>0</templateVersion>
  <facilityTemplateVersion>1</facilityTemplateVersion>
</ePathIdentification>
```

6.2. 医療機関情報

(1) 医療機関コード (項番:1-2-1)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パス データ		
/ePathMessage/facility						医療機関の情報
医療機関コード	id	出力対象外	1..1	1..1	例) 1312233334	医療機関を識別するコード (10桁)。 付録 1. コード一覧「医療機関コード」より 設定する。

XML 記述例

```
<id>1312233334</id>
```

解説

出力元の医療機関の医療機関コードを出力する。

医療機関コードとは、全国の保険医療機関それぞれの施設ごとに割り振られた 10 桁の番号を指し下記の要素で構成される (図 6-2-1)

都道府県番号 (2 桁) + 点数表番号 (1 桁) + 都市区番号 (2 桁) + 医療機関等番号 (4 桁) + チェックディジット (1 桁)

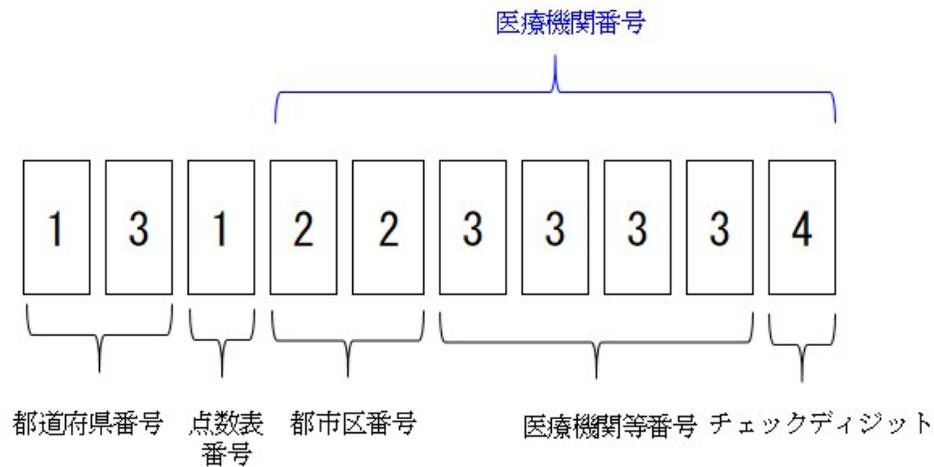


図 6-2-1 医療機関を識別するコード (10 桁)

都道府県番号は JISC 日本産業標準調査会にて [JISX0401 都道府県コード](https://www.iisc.go.jp/app/jis/general/GnrJISSearch.html) で各都道府県に割り振られた 2 桁の番号 (コード) を指す。
<https://www.iisc.go.jp/app/jis/general/GnrJISSearch.html>

点数表番号は、医科 : 1、歯科 : 3 を設定する。

都市区番号、医療機関等番号およびチェックディジットの 7 桁については各地方厚生 (支) 局が定める「保険医療機関等の指定状況等一覧」の「コード内容別医療機関一覧表 (表 6-2-1) の医療機関コードを設定する。

表 6-2-1 地方厚生 (支) 局 コード内容別医療機関一覧表 (2023 年 9 月時点)

地方厚生 (支) 局	リンク
北海道厚生局	http://kouseikyoku.mhlw.go.jp/hokkaido/gyomu/gyomu/hoken_kikan/code_ichiran.html
東北厚生局	https://kouseikyoku.mhlw.go.jp/tohoku/gyomu/gyomu/hoken_kikan/itiran.html
関東信越厚生局	https://kouseikyoku.mhlw.go.jp/kantoshinetsu/chousa/shitei.html

地方厚生（支）局	リンク
東海道北陸厚生局	http://kouseikyoku.mhlw.go.jp/tokaihokuriku/gyomu/gyomu/hoken_kikan/shitei.html
近畿厚生局	https://kouseikyoku.mhlw.go.jp/kinki/tyousa/shinkishitei.html
中国四国厚生局	http://kouseikyoku.mhlw.go.jp/chugokushikoku/chousaka/iryokikanshitei.html
四国厚生局	http://kouseikyoku.mhlw.go.jp/shikoku/gyomu/gyomu/hoken_kikan/shitei/index.html
九州厚生局	https://kouseikyoku.mhlw.go.jp/kyushu/gyomu/gyomu/hoken_kikan/index_00006.html

(2) 医療機関名称（項番:1-2-2）

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パス データ		
/ePathMessage/facility					医療機関の情報	
医療機関名称	name	出力対象外	1..1	1..1	例) 医療法人 JAHIS 病院	医療機関名称

XML 記述例

```
<name>医療法人 JAHIS 病院</name>
```

解説

出力元の医療機関の医療機関名を出力する。

(3) XML 記述例 (項番:1-2~1-2-2)

```
<facility>  
  <id>1312233334</id>  
  <name>医療法人 JAHIS 病院</name>  
</facility>
```

6.3. 患者基本情報

(1) 患者 ID (項番:1-3-1)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/patient/						患者の基本情報
患者 ID	id	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 1234567890	当該施設における患者を一意に識別する 10 桁の英数字からなる ID

XML 記述例

```
<id>1234567890</id>
```

解説

id は 10 桁に固定されているため 10 桁未満の場合は左 0 埋めにする。

(2) 患者名 (項番:1-3-2)、姓 (1-3-2-1)、名 (1-3-2-2)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パス データ		
/ePathMessage/patient/						患者の基本情報
患者名	name	出力対象外	出力対象外	1..*		<p>患者氏名・用途 患者氏名は「英語・ローマ字」「漢字名」「フリガナ」での表記方法があり、要素繰り返しの記述にて3つの患者氏名を表現する。患者氏名の表記の区別は「用途」の設定値で判断し、以下の順序で記述すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語・ローマ字表記 2. 漢字 (表意文字) 表記 3. フリガナ (表音文字) 表記 <p>英語・ローマ字表記: システムが英語表記のみである場合や英語表記の外国人の場合に漢字名の補助として半角文字で設定する。(省略可)</p> <p>漢字 (表意文字) 表記: 漢字名の設定を必須とする。外国人の場合など漢字名で表現できない場合、システムで管理している表意文字を全角文字で設定する。</p> <p>フリガナ (表音文字) 表記: 患者氏名の読みを全角カタカナで設定する。外国人の場合やシステムでフリガナ表記が難しい場合を除き、設定することを強く推奨する。</p>

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
用途	@use	出力対象外	出力対象外	1..1	例) IDE	患者名の表記方法を表すコード ABC：英語・ローマ字表記 IDE：漢字(表意文字)表記、SYL：フリガナ(表音文字)表記

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/patient/name/						患者氏名・用途
姓	family	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 医療	姓と名の分離記述が出来ない場合、姓(family)部に記載してもよい。
名	given	出力対象外	出力対象外	0..*	例) 太郎	ミドルネームが存在する場合は要素繰り返して設定する。

XML 記述例

```

<name use="IDE">
  <family>医療</family>
  <given>太郎</given>
</name>

<name use="SYL">
  <family>イリョウ</family>
  <given>タロウ</given>
</name>

```

解説

use 属性には、表 6-3-1 で定義された値を設定し、その値に応じた表記方法で family 要素、given 要素を設定する。姓・名・ミドルネームなどを分割できない場合は、1つにまとめて family 要素に設定すること。ミドルネームが存在する場合、given 要素に、名を先、ミドルネームを後、として出力することを推奨する。

表 6-3-1 用途

値	内容
SYL	フリガナ（表音文字）表記
IDE	漢字（表意文字）表記
ABC	英語・ローマ字表記

(3) 性別（項番:1-3-3）

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/patient/						患者の基本情報
性別	administrativeGender	出力対象外	出力対象外	1..1	例) M	性別を表すコード。付録 1. コード一覧「性別」より設定する。

XML 記述例

```
<administrativeGender>M</administrativeGender>
```

解説

性別は、表 6-3-2 (ePath 仕様書の付録 1. コード一覧「性別」と同一) で定義された値を設定する。

表 6-3-2 性別

値	内容
M	男性
F	女性
UN	不明

(5) 生年月日 (項番:1-3-4)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/patient/						患者の基本情報
生年月日	birthdate	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 19271001	YYYYMMDD 表記

XML 記述例

```
<birthdate>19271001</birthdate>
```

解説

生年月日を設定する。

(6) XML 記述例 (項番:1-3~1-3-4)

<適用後パステータ>

```
<patient>
  <id>1334567890</id>
  <name use="IDE">
    <family>医療</family>
    <given>太郎</given>
  </name>
  <name use="SYL">
    <family>イリョウ</family>
    <given>タロウ</given>
  </name>
  <administrativeGender>M</administrativeGender>
  <birthdate>19271001</birthdate>
</patient>
```

6.4. 入院情報

(1) 診療科 (項番:1-4-1)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/admission						入院情報
診療科	clinicalDepartment	出力対象外	0..*	1..*		診療科を表すコード・名称。付録 1. コード一覧「診療科」より設定する。要素繰り返しの記述で施設等のローカル内で定めたコードを追加で設定してもよい。但し、その場合コード一覧で定める「診療科」は 1 番目に設定すること。
コード	@code	出力対象外	1..1	1..1	標準コードの場合： 例) 10 ローカルコードの場合： 例) 101	コード体系に基づく診療科コード
名称	@displayName	出力対象外	1..1	1..1	標準コードの場合： 例) 外科 ローカルコードの場合： 例) 心臓外科	コード体系に基づく診療科名称
コード体系	@codeSystem	出力対象外	1..1	1..1	標準コードの場合： 固定値) 1.2.392.200250.2.2.2 ローカルコードの場合： 例) LOCAL	対応するコード体系 OID 施設等のローカル内で定めたコード体系の場合、 OID ではないローカル内で識別できる独自のシンボル値を設定してもよい。

XML 記述例

```
<clinicalDepartment code="10" displayName="外科" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.2"/>
<clinicalDepartment code="101" displayName="心臓外科" codeSystem="LOCAL"/>
```

解説

診療科は入院時の診療科を設定する。

標準コードの場合、コード値、名称は、「SS-MIX2 統一診療科コード表 V1.0」(#0069 診療部門) で定義された 2 ケタ科および 2 ケタ名称を用いる。

SS-MIX2 統一診療科コード表 V1.0 (#0069 診療部門) :

https://www.jami.jp/jamistd/docs/SS-MIX2/h/SS-MIX2_StndrdStrgSpecVer.1.2hCodeTable.pdf

ローカルコードの場合は、施設等のローカル内で定めたコード値、名称を用いる。

(2) 病名 (項番: 1-4-2)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/admission						入院情報
病名	disease	0..*	0..*	0..*		病名を識別するコード・名称 MEDIS-DC 標準病名、ICD10 の病名 コード・名称は、下記の付録 1 コード 一覧の項目より要素繰り返しで設定する。 1. MEDIS-DC 標準病名マスタ管理番号 2. ICD10 標準病名コード

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
						要素繰り返しの順序もこれに沿って記述すること。 施設等のローカル内で定めたコードを追加で設定してもよい。但し、その場合、上記の標準病名コードは必ず1つは設定し、ローカルコードの記述順は繰り返しの最後になること。
コード	@code	1..1	1..1	1..1	例) 20071393	病名コード・管理番号
名称	@displayName	1..1	1..1	1..1	例) 転移性肺腫瘍	病名
コード体系	@codeSystem	1..1	1..1	1..1	標準コードの場合： 例) 1.2.392.200119.4.101.2 ローカルコードの場合： 例)LOCAL	対応するコード体系 OID 施設等のローカル内で定めたコード体系の場合、 OID ではないローカル内で識別できる独自のシンボル値を設定してもよい。

XML 記述例

```
<disease code="20071393" displayName="転移性肺腫瘍" codeSystem="1.2.392.200119.4.101.2"/>
<disease code="00009999" displayName="肺癌" codeSystem="LOCAL"/>
```

解説

パスが適用された入院において、診療行為の主な対象となった病名（いわゆる「入院中主病名」）の識別情報を設定する。

繰り返しが可能な要素であり、1つの病名に対する MEDIS 標準病名マスターの管理番号、ICD-10 コード、施設等のローカルコードなどを、この順序で記述する。codeSystem 属性には、MEDIS 標準病名マスターの管理番号の場合は「1.2.392.200119.4.101.2」を、ICD-10 コードの場合は「2.16.840.1.113883.6.3」を指定すること。

© JAHIS 2023

(3) 入院日 (項番:1-4-3)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/admission/						入院情報
入院日	admissionDate	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 20230403	YYYYMMDD 表記

XML 記述例

```
<admissionDate>20230403</admissionDate>
```

解説

パスが適用された入院における入院日を設定する。

(4) 退院日 (項番:1-4-4)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/admission/						入院情報
退院日	dischargeDate	出力対象外	出力対象外	0..1	例) 20230409	YYYYMMDD 表記

XML 記述例

```
<dischargeDate>20230409</dischargeDate>
```

解説

パスが適用された入院における退院日を設定する。退院日が決まっていない場合は省略する。

(5) 死亡有無 (項番:1-4-5)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/admission/						入院情報
死亡有無	patientDeathIndicator	出力対象外	出力対象外	0..1	例) N	死亡有無を表すコード。付録1. コード一覧の「YN 識別」で定めるコードを設定する。例) Y (死亡)

XML 記述例

```
<patientDeathIndicator>N</patientDeathIndicator>
```

解説

パスが適用された入院における死亡有無を設定する。

死亡有無は、表 6-4-1 (ePath 仕様書の付録1. コード一覧「YN 識別」と同一) で定義された値を設定する。

表 6-4-1 死亡有無

値	内容
Y	死亡有 (死亡退院の場合のみ)
N	死亡無

(6) XML 記述例 (項番:1-4-1~1-4-5)

```

<admission>
  <clinicalDepartment code="10" displayName="外科" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.2"/>
  <disease code="20071393" displayName="転移性肺腫瘍" codeSystem="1.2.392.200119.4.101.2"/>
  <admissionDate>20230403</admissionDate>
  <dischargeDate>20230409</dischargeDate>
  <patientDeathIndicator>N</patientDeathIndicator>
</admission>

```

(7) 主要イベント情報 (項番: 1-4-6)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/admission						入院情報
主要イベント情報	majorEvent	0..*	0..*	0..*		手術・治療/処置/主要検査などの主要となるイベントの情報。例)手術、内視鏡治療、放射線治療、内視鏡検査、心臓カテーテル検査、等

解説

手術・治療/処置/主要検査などの主要となるイベントの情報を設定する。

本メッセージ内に設定する要素はイベント名称（項番：1-4-6-1）～主要イベント情報（項番：1-4-6-6）を参照のこと。

(8) イベント名称（項番: 1-4-6-1）

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/admission/majorEvent						
イベント名称	eventName	1..1	1..1	1..1	例) 腹腔鏡下手術 例) 1日目	手術・治療/処置/主要検査などの主要となるイベントの情報 イベントに応じた術式・処置の名称

XML 記述例

```
<eventName>腹腔鏡下術</eventName>
```

解説

手術・治療/処置/検査などの主要となるイベントに応じた術式・治療/処置/検査などの名称を設定する。

手術・治療/処置/検査などの名称を出力できない場合は、「病日」（項番：1-4-6-4）の名称やイベントからの経過日数を表す名称（術後3日目）などを設定することも可能である。

(9) 診療区分 (項番: 1-4-6-2)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/admission/majorEvent						手術・治療/処置/主要検査などの主要となるイベントの情報
診療区分	category	0..1	0..1	0..1		(予約項目) 処方、処置、手術等の診療を識別するコード・名称・コード体系
コード	@code	1..1	1..1	1..1	予約項目のため未定	(予約項目) 診療区分
名称	@displayName	1..1	1..1	1..1	予約項目のため未定	(予約項目) 診療区分名称
コード体系	@codeSystem	1..1	1..1	1..1	予約項目のため未定	(予約項目) 対応するコード体系 OID

XML 記述例

予約項目のため記述例なし

解説

予約項目 (※) である。主要イベントとなる処方、処置、手術等の診療の区分を識別するコード・名称・コード体系を設定する。

※予約項目とは、現時点で利用はしていないが今後利用されることが想定されるためあらかじめ設定している項目である。

診療区分、麻酔種別、関連 OAT ユニット識別情報等の項目が該当する。

(10) 麻酔種別 (項番:1-4-6-3)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/admission/majorEvent						手術・治療/処置/主要検査などの主要となるイベントの情報
麻酔種別	anesthesiaCode	0..1	0..1	0..1		(予約項目) 処置・手術等で麻酔を用いた場合の麻酔の種別を表すコード・名称・コード体系
麻酔種別コード	@code	1..1	1..1	1..1	予約項目のため未定	(予約項目) 麻酔種別コード
麻酔種別名称	@displayName	1..1	1..1	1..1	予約項目のため未定	(予約項目) 麻酔種別名称
コード体系	@codeSystem	1..1	1..1	1..1	予約項目のため未定	(予約項目) 対応するコード体系 OID

XML 記述例

予約項目のため記述例なし

解説

予約項目である。主要イベントとなる処置・手術等で使用された麻酔種別を設定する。主要イベントの内容として麻酔の使用を伴わないイベントの場合は省略が可能。

(11) 病日 (項番:1-4-6-4)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/majorEvent						手術・治療/処置/主要検査などの主要となるイベントの情報
病日	eventElapsedDays	1..1	1..1	1..1	例) 3	入院日から起算した当イベントの日数。当日が1から始まる日数。入院日より過去を示す場合は-1(入院日前日)からの負数で表す(値0は存在しない)。施設パスおよび適用後パス、適用後パスデータについては上記の通りであるが、ひな型パスについてはOATユニットが設定された最初の日を1とし、その日から始まる日数となる。

XML 記述例

```
<eventElapsedDays>3</eventElapsedDays>
```

解説

当該項目については、ひな型パスと施設パス、適用後パスデータでは日数の計算方法が異なるため以下にそれぞれについて解説を行う。

<共通事項>

ひな型パス、施設パス、適用後パスデータに共通して「0」となる値は存在しない。

<ひな型パスの場合>

OATユニットが設定された最初の日程を値1として起算し、そこからの経過日数の値を設定する(図6-4-1)。

なお、ひな型パスにおいてOATユニットが存在しない日はあり得るが、パス経過日数の1日目にOATユニットが存在しないパスは想定していない。

パス経過日数：	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
	OATユニット	OATユニット	OATユニット	OATユニット		OATユニット	OATユニット
			OATユニット			OATユニット	
			OATユニット				
主要イベント：			主要イベント				
値：	1	2	3	4	5	6	7

図 6-4-1 OATユニットが設定された最初の日を値1として計算する場合

<施設パスおよび適用後パスデータの場合>

入院日当日を値1として起算し、該当する日数の値を設定する（図 6-4-2）。入院日より過去を示す場合は-1(入院日前日)からの負数で表す（値0は存在しない）。

			入院日				
		└──┬──┘					
日付：	4月1日	4月2日	4月3日	4月4日	4月5日	4月6日	4月7日
主要イベント：					主要イベント		
値：	-2	-1	1	2	3	4	5

図 6-4-2 入院日を値1として計算する場合

(12) 主要イベント日 (項番:1-4-6-5)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/majorEvent						手術・治療/処置/主要検査などの主要となるイベントの情報
主要イベント日	eventDate	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 20230405	YYYYMMDD 表記

XML 記述例

```
<eventDate>20230405</eventDate>
```

解説

主要イベントの日付を設定する。

(13) 主要イベント時間 (項番:1-4-6-6)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/majorEvent						手術・治療/処置/主要検査などの主要となるイベントの情報
主要イベント時間	eventTimePeriod	出力対象外	出力対象外	0..1		主要イベントの開始・終了時刻

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
開始時間	@low	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 20230405123456	YYYYMMDD[HH[MM[SS]]] 表記 時刻を設定できない場合は省略してもよい。 ※表記の [] 内の時分秒は省略可能な形式を意味する。
終了時間	@high	出力対象外	出力対象外	0..1	例) 20230405124534	YYYYMMDD[HH[MM[SS]]] 表記 時刻を設定できない場合は省略してもよい。 ※表記の [] 内の時分秒は省略可能な形式を意味する。

XML 記述例

<low 属性および high 属性が共に設定が可能な場合>

```
<eventTimePeriod low="20230405123456" high="20230405124534"/>
```

<high 属性が設定できない場合>

```
<eventTimePeriod low="20230405123456"/>
```

<時間・分・秒の一部を省略して設定した場合>

```
<eventTimePeriod low="2023040504" high="2023040512"/>
```

解説

主要イベントの時間が設定できない場合には当該項目は省略が可能。

また、主要イベント時間が設定できる場合でも終了日時が設定できない場合には終了時間は省略することが可能。

設定する値についても時間（HH）、分（MM）および秒（SS）は省略が可能。

（14）XML 記述例（項番：1-4-6～1-4-6-6）

<ひな型パス、施設パスの場合>

```
<majorEvent>  
  <eventName>腹腔鏡下術</eventName>  
  <eventElapsedDays>3</eventElapsedDays>  
</majorEvent>
```

<適用後パステータの場合>

```
<majorEvent>  
  <eventName>腹腔鏡下術</eventName>  
  <eventElapsedDays>3</eventElapsedDays>  
  <eventDate>20230203</eventDate>  
  <eventTimePeriod low="202302031000" high="202302031200"/>  
</majorEvent>
```

<手術・治療/処置/検査などの主要となるイベントが存在しない日程を主要イベント情報として出力する場合>

```
<majorEvent>  
  <eventName>術後3日目</eventName>  
  <eventElapsedDays>6</eventElapsedDays>  
  <eventDate>20230206</eventDate>  
  <eventTimePeriod low="20230206" high="20230206"/>  
</majorEvent>
```

6.5. パス適用情報

6.5.1. パス適用基本情報

(1) パス適用基本情報（項番:1-5-1）

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply						パス適用における各種情報
パス適用基本情報	basicInformation	1..1	1..1	1..1		パス適用における基本情報

解説

パス適用における基本情報を設定する。

本メッセージ内に設定する内容は適用時パス識別子（項番：1-5-1-1）～パス終了区分（項番：1-5-1-5）を参照のこと。

(2) 適用時パス識別子（項番:1-5-1-1）

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/basicInformation						パス適用における基本情報

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
適用時パス識別子	id	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 334792	患者適用したパスデータを一意に識別する ID。患者適用時に一意な識別子の設定を必須とする（オーダ No に相当する）。別患者や同一患者の別入院時に適用したパスの ID と重複してはならない。

XML 記述例

```
<id>334792</id>
```

解説

説明・備考に記載のとおりであり追加の解説はない。

(3) 適応基準（項番:1-5-1-2）、内容（項番:1-5-1-2-1）

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/basicInformation						パス適用における基本情報
適応基準	adaptiveCriteria	1..1	1..1	1..1		パスの適応基準を満たしたかの確認情報
確認区分	@confirmed	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 1	1：適応基準を確認

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/basicInformation/adaptiveCriteria						パスの適応基準を満たしたかの確認情報
内容	text	1..1	1..1	1..1	例) 1.胆嚢と卵管を除く多臓器合併切除を伴わない症例 2.ストーマ造設を伴わない症例 3.LAC から開腹に移行した症例 4.結腸がん、良性腫瘍、憩室炎、憩室出血	適応基準の内容 複数の要素で構成される基準であってもテキスト1文で表記する。

解説

パス適用時に、パスの適応基準（当該パスを使用できる対象患者の条件）を満たしているかを確認している場合に **confirmed** 属性に「1」を設定する。適応基準の内容をテキストで出力する。適応基準は複数設定される場合があるが、**text** 要素の繰り返しではなく1つの要素にまとめて設定すること。

XML 記述例

```
<adaptiveCriteria confirmed="1">
  <text>1.胆嚢と卵管を除く多臓器合併切除を伴わない症例 2.ストーマ造設を伴わない症例 3.LAC から開腹に移行した症例 4.結腸がん、良性腫瘍、憩室炎、憩室出血</text>
</adaptiveCriteria>
```

(4) パス実施期間 (項番:1-5-1-3)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/basicInformation/						パス適用における基本情報
パス実施期間	implementationPeriod	出力対象外	出力対象外	1..1		パスの実施期間の開始・終了日
開始日	@low	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 20201225	YYYYMMDD 表記
終了日	@high	出力対象外	出力対象外	0..1	例) 20201231	YYYYMMDD 表記

XML 記述例

```
<implementationPeriod low="20201225" high="20201231"/>
```

解説

説明・備考に記載のとおりであり追加の解説はない。

(5) パス予定日数 (項番:1-5-1-4)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/basicInformation/						パス適用における基本情報

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
パス予定日数	scheduledDays	0..1	0..1	0..1	例) 7	予定時のパス設定日数

XML 記述例

```
<scheduledDays>7</scheduledDays>
```

解説

パスの開始予定日から終了予定日までの日数を設定する。具体的には以下の方法で算出すること。

パス予定日数 = 終了予定日 - 開始予定日 + 1

(6) パス終了区分 (項番:1-5-1-5)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/basicInformation/						パス適用における基本情報
パス終了区分	pathEndIndicator	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 1	パスの終了・中止を表すコード。付録1.コード一覧「パス終了区分」より設定する。例) 1: 終了、2: 中止

XML 記述例

```
<pathEndIndicator>1</pathEndIndicator>
```

解説

パス終了区分には、表 6-5-1-1（ePath 仕様書の付録 1. コード一覧「パス終了区分」と同一）で定義された値を設定する。パスによる診療を最後まで実施した場合は「終了」を、パスによる診療を途中で中止した場合は「中止」を設定する。

表 6-5-1-1 パス終了区分

値	内容
1	終了
2	中止

(7) XML 記述例（項番:1-5-1～1-5-1-5）

<適用後パスデータの場合>

```
<basicInformation>
  <id>334792</id>
  <adaptiveCriteria confirmed="1">
    <text>1.胆嚢と卵管を除く多臓器合併切除を伴わない症例 2.ストーマ造設を伴わない症例 3.LAC から開腹に移行した症例 4.結腸がん、良性腫瘍、憩室炎、憩室出血</text>
  </adaptiveCriteria>
  <implementationPeriod low="20201225" high="20201231"/>
  <scheduledDays>7</scheduledDays>
  <pathEndIndicator>1</pathEndIndicator>
</basicInformation>
```

6.5.2. 病日・イベント情報

(1) 病日・イベント情報 (項番:1-5-2)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/						パス適用における各種情報
病日・イベント情報	event	1..*	1..*	1..*		病日または同一病日内でのイベントでの OAT ユニット集合体。同一病日において術前・術中・術後等のイベントが存在し得る。主要イベントとは病日で紐づく。 ※要素の出現順が時系列を表す。

解説

パス適用における病日または同一病日内でのイベントでの OAT ユニット集合体を設定する。

本メッセージ内に設定する内容は病日 (項番 : 1-5-2-1) ~ 記録者 (項番 : 1-5-2-4-2) (最終項目) となる。

(2) 病日 (項番:1-5-2-1)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event						病日または同一病日内でのイベントでのOAT ユニット集合体。同一病日において術前・術中・術後等のイベントが存在し得る。主要イベントとは病日で紐づく。 ※要素の出現順が時系列を表す。
病日	eventElapsedDays	1..1	1..1	1..1	例) 1	入院日から起算した当イベントの日数。当日が1から始まる日数。入院日より過去を示す場合は-1(入院日前日)からの負数で表す(値0は存在しない)。施設パスおよび適用後パス、適用後パスデータについては上記の通りであるが、ひな型パスについてはOATユニットが設定された最初の日を1とし、その日から始まる日数となる。

XML 記述例

```
<eventElapsedDays>1</eventElapsedDays>
```

解説

病日 (項番 : 1-4-6-4) と同様である。

(3) イベント名 (項番:1-5-2-2)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パス データ		
/ePathMessage/ePathApply/event						病日または同一病日内でのイベントの OAT ユニット集合体。 要素の出現順が時系列順となる。
イベント名	eventName	0..1	0..1	0..1	例) 1日目	病日または同一病日内でのイベントの名称。 例) 1日目、2日前、当日、1日目術前、術前、術中、術後

XML 記述例

```
<eventName>1日目</eventName>
```

解説

術前と術後など1日が複数の単位に分割されている場合は、分割した単位ごとの名称を設定する。

majorEvent (項番:1-4-6-1) と同様に、手術・治療/処置/検査などのイベントが設定されていない場合は、「病日」 (項番:1-5-2-1) の名称やイベントからの経過日数を表す名称 (術後3日目) などを設定することも可能である。

(3) XML 記述例 (項番 : 1-5-2-1~1-5-2-2)

<適用後パステータの場合>

```
<event>  
  <eventElapsedDays>1</eventElapsedDays>  
  <eventName>1 日目</eventName>  
</event>
```

<適用後パステータ、術前と術後など 1 日が複数の単位に分割されている場合>

```
<event>  
  <eventElapsedDays>1</eventElapsedDays>  
  <eventName>1 日目術前</eventName>  
</event>  
  
<event>  
  <eventElapsedDays>1</eventElapsedDays>  
  <eventName>1 日目術後</eventName>  
</event>
```

6.5.2.1. OAT ユニット

(1) OAT ユニット (項番:1-5-2-3)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event						病日または同一病日内でのイベントのOATユニット集合体。 要素の出現順が時系列順となる。
OAT ユニット	oatUnit	1..*	1..*	1..*		1つのアウトカムとそれに属する観察項目・タスク（実施結果・評価・バリエーション含む）を診療最小単位：ユニットとして表した情報

解説

1つのアウトカムとそれに属する観察項目・タスク（実施結果・評価・バリエーション含む）を診療最小単位：ユニットとして表した情報を設定する。
また、ユニットを識別するための情報として、OAT ユニット識別を設定する。

6.5.2.1.1. OAT ユニット識別

(1) OAT ユニット識別 (項番:1-5-2-3-1)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit						1つのアウトカムとそれに属する観察項目・タスク（実施結果・評価・バリエーション含む）を診療最小単位：ユニットとして表した情報
OAT ユニット識別	oatUnitIdentification	1..1	1..1	1..1		OAT ユニットの識別情報
OAT ユニット識別子	id	1..1	1..1	1..1	例) oat001	OAT ユニットの一意に識別する ID テキスト表記の GUID、または当ひな型・データ内で一意となる任意のシンボル (例、「oat0001」)を設定する。 一意性の保証を容易にするためにパス適用時以降は GUID を設定することを推奨する。ひな型、施設パス、適用時、適用後とパス状態が遷移する中で、パスの状態をまたがって変更点を判別することから1度設定した OAT ユニットの識別子は変更しないものとする。
発生時パス状態区分	ePathStatusType	1..1	1..1	1..1	例) 12	当該 OAT ユニットの要素が新規に記述された際のパス状態区分 付録1. コード一覧「パス状態区分」より設定する。 例) 01：ひな型パス、02：施設パス、12：適用後パス

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
関連 OAT ユニット 識別情報	relOATUnitIds	0..*	0..*	0..*	予約項目のため未定	当 OAT ユニットの先行ユニットを指し示す OAT ユニット識別子群。 一番先頭となる OAT ユニットは指し示すものがないため固定値「-(ハイフン)」を設定する。※OAT ユニット間の関係を厳密に表すための項目であるが、「予約項目」とし本バージョンにおいては設定しなくともよい。

XML 記述例

```

< oatUnitIdentification >
  < id > oat001 < /id >
  < ePathStatusType > 12 < /ePathStatusType >
< / oatUnitIdentification >

```

解説

OAT ユニット識別子には、テキスト表記の GUID、またはひな型・施設パス・適用後パスデータで一意的となる任意のシンボル(例、「oat0001」)を設定すること。任意のシンボルを設定する場合、各ひな型・施設パスで同一のものが設定される可能性があるため、特に適用後パスデータにおいては、一意性の保証が容易に可能となる GUID を設定することを推奨する。

発生時パス状態区分には、表 6-5-2-1-1 (ePath 仕様書の付録 1. コード一覧「パス状態区分」と同一) で定義された値を設定する。

表 6-5-2-1-1 発生時パス状態区分

値	内容
01	ひな型パス
02	施設パス
12	適用後パス

(2) XML 記述例 (項番:1-5-2-3-1)

<適用後パスデータ、GUID の場合>

```
< oatUnitIdentification >
  < id >7FE89714-09AB-4840-BF23-C486087AD713< /id >
  < ePathStatusType >12< /ePathStatusType >
< / oatUnitIdentification >
```

<適用後パスデータ、任意のシンボルの場合>

```
< oatUnitIdentification >
  < id >oat001< /id >
  < ePathStatusType >12< /ePathStatusType >
< / oatUnitIdentification >
```

6.5.2.1.2. アウトカム

(1) アウトカム (項番:1-5-2-3-2)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パス データ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit						1 つのアウトカムとそれに属する観察項目・タスク（実施結果・評価・バリエーション含む）を診療最小単位：ユニットとして表した情報
アウトカム	outcome	1..1	1..1	1..1		アウトカムの情報

解説

アウトカムに関する情報を設定する。

本項番でメッセージ内に設定する要素は BOM 大分類コード（項番：1-5-2-3-2-1）～記録者（項番：1-5-2-3-2-6-3）を参照のこと。

(2) BOM 大分類コード・名称 (項番:1-5-2-3-2-1)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パス データ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/outcome						アウトカムの情報
BOM 大分類コード・名称	category	0..1	0..1	0..1		BOM 大分類コード・名称 付録1. コード一覧「BOM大分類コード」 より設定する。

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
コード	@code	1..1	1..1	1..1	例) H	大分類コード
名称	@displayName	1..1	1..1	1..1	例) 患者状態	大分類名称
コード体系	@codeSystem	1..1	1..1	1..1	固定値) 1.2.392.200250.3.2.200.10	対応するコード体系 OID

XML 記述例

```
<category code="H" displayName="患者状態" codeSystem="1.2.392.200250.3.2.200.10"/>
```

解説

OAT ユニットのアウトカムが属する、BOM で定義された大分類のコードと名称を設定する。

アウトカムを含まない OAT ユニット（アウトカムに紐づかない独立したタスクのみの場合など）を出力する場合は省略する。

(3) BOM 中分類コード・名称（項番:1-5-2-3-2-2）

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/outcome					アウトカム	
BOM 中分類コード・名称	subcategory	0..1	0..1	0..1	BOM 中分類コード・名称 付録1. コード一覧「BOM 中分類コード」 より設定する。	

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
コード	@code	1..1	1..1	1..1	例) H013	中分類コード
名称	@displayName	1..1	1..1	1..1	例) 循環	中分類名称
コード体系	@codeSystem	1..1	1..1	1..1	固定値) 1.2.392.200250.3.2.200.20	対応するコード体系 OID

XML 記述例

```
<subcategory code="H013" displayName="循環" codeSystem="1.2.392.200250.3.2.200.20"/>
```

解説

OAT ユニットのアウトカムが属する、BOM で定義された中分類のコードと名称を設定する。

アウトカムを含まない OAT ユニット（アウトカムに紐づかない独立したタスクのみの場合など）を出力する場合は省略する。

(4) アウトカムコード・名称（項番:1-5-2-3-2-3）

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/outcome					アウトカム	
アウトカムコード・名称	code	0..1	0..1	0..1	BOM アウトカムコード・名称 付録1. コード一覧「BOM アウトカムコード」より設定する。	

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
						コード一覧で示すコード・名称が設定できない場合、施設等のローカル内で定めたローカルコード・名称・コード体系を設定してもよい。
コード	@code	1..1	1..1	1..1	BOM アウトカムコードが設定できる場合： 例) O01390 設定できない場合： 例) OCL001	アウトカムコード
名称	@displayName	1..1	1..1	1..1	例) 循環動態が安定している	アウトカム名称
コード体系	@codeSystem	1..1	1..1	1..1	BOM アウトカムコードが設定できる場合： 固定値) 1.2.392.200250.3.2.200.30 設定できない場合： 例) LOCAL	対応するコード体系 OID 施設等のローカル内で定めたコード体系の場合、OID ではないローカル内で識別できる独自のシンボル値を設定してもよい。

XML 記述例

```
<code code="O01390" displayName="循環動態が安定している" codeSystem="1.2.392.200250.3.2.200.30"/>
```

解説

OAT ユニットのアウトカムについて、BOM を使用する場合は BOM 定義されたアウトカムコードと名称を設定する。施設等でローカルに定めたアウトカムコードと名称を設定することも可能。
1 つの OAT ユニットに対し、アウトカムは 1 つだけ設定可能である。

© JAHIS 2023

アウトカムを含まない OAT ユニット（アウトカムに紐づかない独立したタスクのみの場合など）を出力する場合は省略する。

(5) クリティカル・インディケータ（項番:1-5-2-3-2-4）

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/outcome						アウトカム
クリティカル・インディケータ	criticalIndicator	0..1	0..1	0..1	例) N	解析上、治療結果に重大な影響を与える、重要なアウトカム 付録1. コード一覧「YN 識別」より設定する。 例) Y (対象)/N (非対象)

XML 記述例

```
<criticalIndicator>N</criticalIndicator>
```

解説

アウトカムを含まない OAT ユニット（アウトカムに紐づかない独立したタスクのみの場合など）を出力する場合は省略する。

クリティカル・インディケータには、表 6-5-2-1-2-1（ePath 仕様書の付録1. コード一覧「YN 識別」と同一）で定義された値を設定する。

表 6-5-2-1-2-1 YN 識別

値	内容
Y	クリティカル・インディケータである
N	クリティカル・インディケータでない

(6) XML 記述例 (項番 : 1-5-2-3-2-1~1-5-2-3-2-4)

<適用後パスデータ、BOM を使用する場合>

```
<outcome>
  <category code="H" displayName="患者状態" codeSystem="1.2.392.200250.3.2.200.10"/>
  <subcategory code="H013" displayName="循環" codeSystem="1.2.392.200250.3.2.200.20"/>
  <code code="O01390" displayName="循環動態が安定している" codeSystem="1.2.392.200250.3.2.200.30"/>
  <criticalIndicator>N</criticalIndicator>
</outcome>
```

<適用後パスデータ、ローカルコードを使用する場合>

```
<outcome>
  <code code="OCL001" displayName="検査データが改善する" codeSystem="LOCAL"/>
  <criticalIndicator>N</criticalIndicator>
</outcome>
```

(7) 補足

BOM の構造を図 6-5-2-1-2-1、マスターの例を表 6-5-2-1-2-2 に示す。

BOM はアウトカムを体系的に分類した大分類、中分類にアウトカム、観察項目が紐づけられて構成されている。

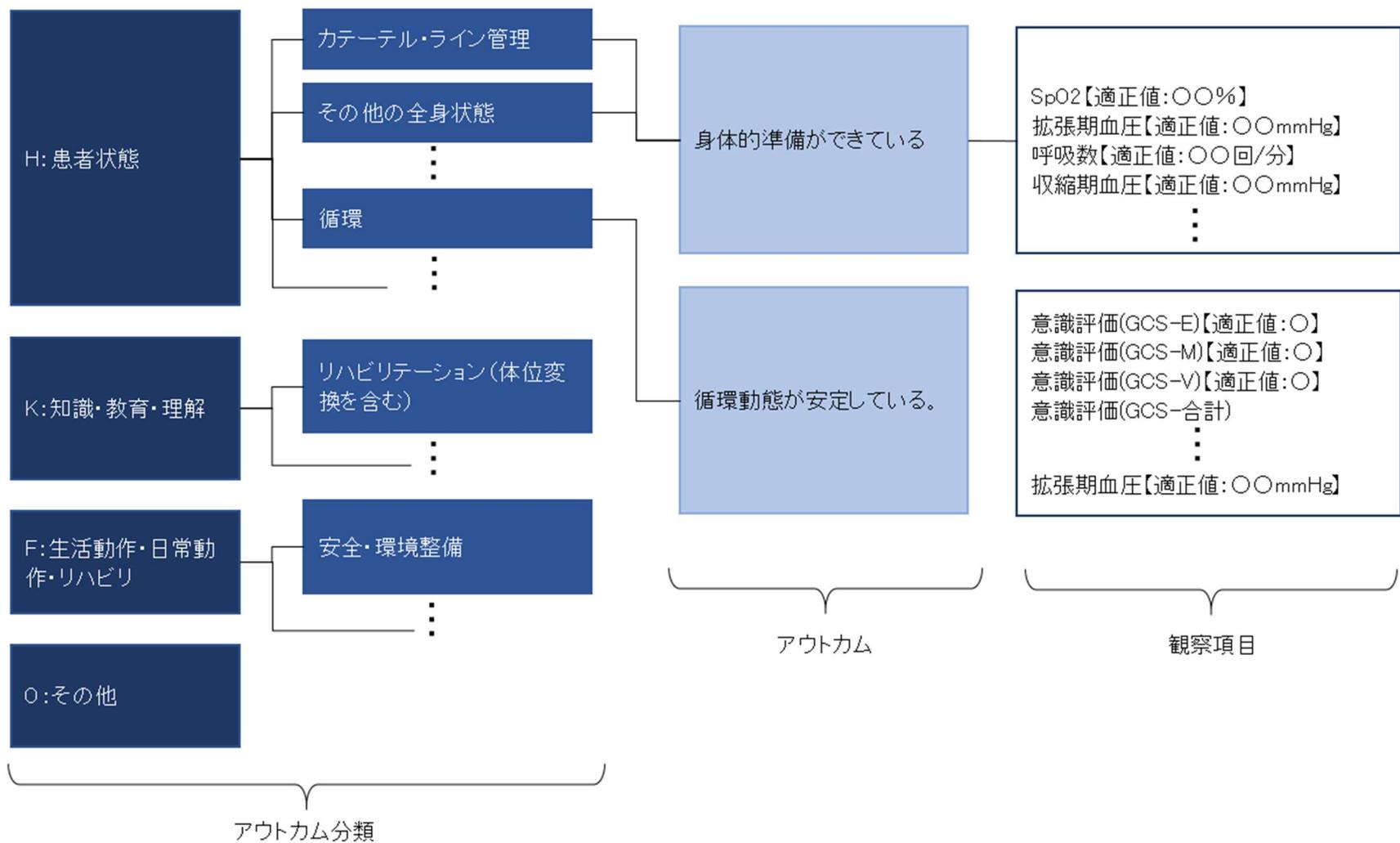


図 6-5-2-1-2-1 BOM の構造

表 6-5-2-1-2-2 BOM のマスター例

管理番号	大分類コード	大分類名称	中分類コード	中分類名称	アウトカムコード	アウトカム名称
001040	H	患者状態	H013	循環	O01390	循環動態が安定している

BOM の詳細については巻末の「付録—2. 参考文献」の「患者状態アウトカム用語集ベーシックアウトカムマスター」を参照のこと。

6.5.2.1.2.1. 観察項目

(1) 観察項目 (項番:1-5-2-3-2-5)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パス データ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/outcome						アウトカムの情報
観察項目	assessment	1..*	1..*	1..*		アウトカムに対する観察項目群。 要素の出現順が観察項目・タスクの順序を表す。

解説

観察項目に関する情報を設定する。

本項番でメッセージ内に設定する要素は観察項目種別 (項番: 1-5-2-3-2-5-1) ~実施者 (項番: 1-5-2-3-2-5-7-6-2) を参照のこと。

(2) 観察項目種別 (項番:1-5-2-3-2-5-1)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/outcome/assessmen						アウトカムに対する観察項目群。要素の出現順が観察項目・タスクの順序を表す。
観察項目識別	assessmentIdentification	1..1	1..1	1..1		観察項目を識別する情報
発生時パス状態区分	ePathStatusType	1..1	1..1	1..1	例) 02	当該観察項目の要素が新規に記述された際のパス状態区分。 付録1. コード一覧「パス状態区分」より設定する。 例) 01：ひな型パス、02：施設パス、12：適用後パス

XML 記述例

```

<assessmentIdentification>
  <ePathStatusType>02</ePathStatusType >
</assessmentIdentification>

```

解説

発生時パス状態区分には、表 6-5-2-1-2-1-1 (ePath 仕様書の付録1. コード一覧「パス状態区分」と同一) で定義された値を設定する。

表 6-5-2-1-2-1-1 発生時パス状態区分

値	内容
01	ひな型パス
02	施設パス
12	適用後パス

(3) BOM 観察項目分類コード・名称 (項番:1-5-2-3-2-5-2)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パス データ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/outcome/assessment						アウトカムに対する観察項目群。要素の出現順が観察項目・タスクの順序を表す。
BOM 観察項目分類 コード・名称	category	0..1	0..1	0..1		BOM 観察項目分類コード・名称 付録 1. コード一覧「BOM 観察項目分類コード」より設定する。
コード	@code	1..1	1..1	1..1	例) 19	観察項目分類コード
名称	@displayName	1..1	1..1	1..1	例) バイタルサイン	観察項目分類名称
コード体系	@codeSystem	1..1	1..1	1..1	固定値) 1.2.392.200250.3.2.200.40	対応するコード体系 OID

XML 記述例

```
<category code="19" displayName="バイタルサイン" codeSystem="1.2.392.200250.3.2.200.40"/>
```

解説

OAT ユニットのアウトカムに対する観察項目について、BOM で定義された分類コードと名称を設定する。

分類情報を出力できない場合は省略が可能。

LOCAL コードの場合は出力しない。

(4) BOM 観察項目コード・名称 (項番:1-5-2-3-2-5-3)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/outcome/assessment						アウトカムに対する観察項目群。要素の出現順が観察項目・タスクの順序を表す。
BOM 観察項目コード・名称	code	0..1	0..1	0..1		BOM 観察項目コード・名称 付録 1. コード一覧「BOM 観察項目コード」より設定する。
コード	@code	1..1	1..1	1..1	BOM 観察項目コードが設定できる場合： 例) 1900034303 設定できない場合： 例) AS023423D	観察項目コード
名称	@displayName	1..1	1..1	1..1	例) 脈拍数【適正值：≥110回/分】	観察項目名称
コード体系	@codeSystem	1..1	1..1	1..1	BOM 観察項目コードが設定できる場合：例) 1.2.392.200250.3.2.200.50 設定できない場合： 例) LOCAL	対応するコード体系 OID

XML 記述例

```
<code code="1900034303" displayName="脈拍数【適正值：≥110 回/分】" codeSystem="1.2.392.200250.3.2.200.50"/>
```

解説

OAT ユニットのアウトカムに対する観察項目について、BOM で定義された観察項目コードと名称を設定する。

ePath 仕様書に記載はないが、ePath 仕様書で指定されたコード・名称が設定できない場合、施設等でローカルに定めたコード・名称・コード体系を設定できる。

(5) 適正值 (項番:1-5-2-3-2-5-4)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パス データ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/outcome/assessment						アウトカムに対する観察項目群。要素の出現順が観察項目・タスクの順序を表す。
適正值	properValue	0..1	0..1	0..1	例) 100 以上	観察項目の評価基準となる適正值。施設で決定する。

XML 記述例

```
<properValue>100 以上</properValue>
```

解説

観察項目を評価する上で基準となる適正值を設定する。

複数の値が設定されている場合でもひとつの文字列として設定する。

具体例として「脈拍数が 50 回以上 100 回以下」であれば例えば「50 以上、100 以下」を設定する。

また「発赤がない」などの観察結果が「－、±」等の数値ではなく定性的な値である場合は適正值には「－」を設定する。

(6) XML 記述例 (項番:1-5-2-3-2-5~1-5-2-3-2-5-4)

```
<assessment>
  <assessmentIdentification>
    <ePathStatusType>02</ePathStatusType >
  </assessmentIdentification>
  <category code="19" displayName="バイタルサイン" codeSystem="1.2.392.200250.3.2.200.40"/>
  <code code="1900034303" displayName="脈拍数【適正值：≧110 回/分】" codeSystem="1.2.392.200250.3.2.200.50"/>
  <properValue>110 以上</properValue>
</assessment>
```

(7) 補足

BOM の観察項目マスターの例を表 6-5-2-1-2-1-2 に示す。

表 6-5-2-1-2-1-2 BOM の観察項目マスター例

観察項目管理番号	観察項目分類コード	観察項目分類名称	観察項目コード	観察項目名称 1	観察項目名称 2	MEDIS 観察名称管理番号 1 (コード)	MEDIS 観察名称
000273	18	ドレーン-排液量-腹部	1800025800	ドレーン排液量(横隔膜下)に問題がない	ドレーン排液量(左横隔膜下)に問題がない	31000067	横隔膜下ドレーン排液量(左)

BOM の詳細については巻末の「付録—2. 参考文献」の「患者状態アウトカム用語集ベーシックアウトカムマスター」を参照のこと。

6.5.2.1.2.1.1. 観察項目実施

(1) 観察項目実施 (項番:1-5-2-3-2-5-5)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/outcome/assessment						アウトカムに対する観察項目群。要素の出現順が観察項目・タスクの順序を表す。
観察項目実施	execution	出力対象外	出力対象外	0..*		観察項目を実施した際の情報

解説

観察項目を実施した際の情報を設定する。

本項番でメッセージ内に設定する要素は評価状況 (項番 : 1-5-2-3-2-5-5-1) ~測定日時 (項番 : 1-5-2-3-2-5-6-3) を参照のこと。

(2) 評価状況 (項番: 1-5-2-3-2-5-5-1)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/outcome/assessment/execution						観察項目を実施した際の情報
評価状況	status	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 1	観察項目に対する評価状況を表す区分。 付録1. コード一覧「評価状況」より設定する。例) 1 : 達成、2 : 未達成 (バリエーション)、3 : 未評価

XML 記述例

```
<status>1</status>
```

解説

評価状況には、表 6-5-2-1-2-1-1-1 (ePath 仕様書の付録 1. コード一覧「評価状況」と同一) で定義された値を設定する。

なお、適正值 (項番: 1-5-2-3-2-5-4) で設定された値と、観察結果 (項番: 1-5-2-3-2-5-6) に設定された値を比較し、自動的に判定するなどの機能を実装することで判定作業を簡略化することが望ましい。

表 6-5-2-1-2-1-1-1 評価状況

値	内容
1	達成
2	未達成 (バリエーション)
3	未評価

(3) 評価者 (項番: 1-5-2-3-2-5-5-2)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/outcome/assessment/execution						
評価者	author	出力対象外	出力対象外	1..1	観察項目の実施における評価者	
評価日時	@datetime	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 20230404165232 YYYYMMDD[HH[MM[SS]]] 表記	

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
						時刻を設定できない場合は省略してもよい。 ※表記の [] 内の時分秒は省略可能な形式を意味する。
評価者名	@name	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 看護 花子	評価者名
評価者職種	@job	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 看護師	評価者の職種

XML 記述例

```
<author datetime="20230404165232" name="看護 花子" job="看護師"/>
<author datetime="20230405" name="看護 花子" job="看護師"/>
```

解説

観察を実施した評価者の氏名と職種、および評価を行った日時を設定する。

職種については標準化された名称が定義されていないため、施設等でローカルに定めた名称を設定する。

評価日時に設定する値に関して、時間 (HH)、分 (MM) および秒 (SS) は省略が可能。

(4) 観察結果 (項番: 1-5-2-3-2-5-6)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/outcome/assessment/execution						観察項目を実施した際の情報
観察結果	observationResult	出力対象外	出力対象外	0..*		観察項目に対する結果値。観察項目に対して複数回測定するケースの場合は要素繰り返しで複数の結果値を設定する。複数の場合、要素の出現順が時系列を表す。
結果値	@value	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 38.0 2 数値型の場合 : 例) 4.0:3.0	観察項目に対する測定値 例) 「38.0」、「淡血性」 値の型が「2 数値型」(BOM の表現タイプ) の場合は2つの値の間に「:(コロン)」を加え結合した文字列をセットする。
結果値単位	@unit	出力対象外	出力対象外	0..1	例) °C 2 数値型の場合 : 例) 縦 cm:横 cm	測定値の単位 例) 「°C」 値の型が「2 数値型」で単位が存在する場合は2つの値の間に「:(コロン)」を加え結合した文字列をセットする。
測定日時	@datetime	出力対象外	出力対象外	0..1	例) 20230404172952	観察結果を測定した日時。可能な限り設定すること。 YYYYMMDD[HH[MM[SS]]] 表記 時刻を設定できない場合は省略してもよい。 ※表記の [] 内の時分秒は省略可能な形式を意味する。

XML 記述例

```
<observationResult value="38.0" unit="°C" datetime="20230404172952"/>  
<observationResult value="37.6" unit="°C" datetime="2023040508"/>
```

解説

観察を実施し得られた結果と、結果（測定値）に単位がある場合はその単位、測定を行った日時を設定する。

測定日時に設定する値に関して、時間（HH）、分（MM）および秒（SS）は省略が可能。

観察結果は、データ解析において日内の変化が検出できるよう、観察項目の評価に使用した観察結果ばかりでなく、評価対象日（期間）のそれ以外の観察結果についても記載することが望ましい。

(5) XML 記述例（項番: 1-5-2-3-2-5-5～1-5-2-3-2-5-6）

<適用後パステータ>

```
<execution>  
  <status>1</status>  
  <author datetime="20230404165232" name="看護 花子" job="看護師"/>  
  <observationResult value="36.4" unit="°C" datetime="20230404"/>  
</execution>
```

<適用後パステータ、値が2数値型の場合>

```
<execution>  
  <status>1</status>  
  <author datetime="20230404165232" name="看護 花子" job="看護師"/>  
  <observationResult value="4.0:3.0" unit="縦 cm:横 cm" datetime="20230404084032"/>  
</execution>
```

6.5.2.1.2.1.2. タスク

(1) タスク (項番: 1-5-2-3-2-5-7)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/assessment						アウトカムに対する観察項目群。要素の出現順が観察項目・タスクの順序を表す。
タスク	task	0..1	0..1	0..1		タスク情報

解説

oatUnit に属するタスクの情報を設定する。

本メッセージ内に設定する要素はタスク分類 (項番: 1-5-2-3-2-5-7-1) ~実施者 (項番: 1-5-2-3-2-5-7-6-2) を参照のこと。

(2) タスク分類 (項番: 1-5-2-3-2-5-7-1)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/assessment/task						タスク情報
タスク分類	category	1..1	1..1	1..1	例) TPTR ※処置の場合	タスクのカテゴリを識別するコード。付録1 コード一覧「タスク分類」に定めるコードを設定する。

XML 記述例

```
<category>TPTR</category>
```

解説

タスク分類には、表 6-5-2-1-2-1-2-1 (ePath 仕様書の付録 1. コード一覧「タスク分類」と同一) で定義された値を設定する。値の内、第 1 階層か第 2 階層のコードのいずれかを用いる。可能ならば粒度が細かな第 2 階層のコードの利用を推奨する。

(例) 処置の場合 TPTR を設定

(例) 観察項目の場合は NO を設定

表 6-5-2-1-2-1-2-1 コード一覧「タスク分類」

値		内容 (表示名)
第 1 階層	第 2 階層	
TP	—	治療
	TPPR	処方
	TPIN	注射
	TPRE	レジメン
	TPTR	処置
	TPOP	手術
	TPBT	輸血
	TPRH	リハビリ
	TPDI	透析
	TPRT	放射線治療
	TPCI	条件付き指示 (必要時・対症)

値		内容（表示名）
第1階層	第2階層	
EX	—	検査
	EXSP	検体検査
	EXMB	細菌検査
	EXPH	生理検査
	EXEN	内視鏡検査
	EXIM	画像診断
	EXPA	病理診断
ML	—	食事（栄養）
	MLBR	朝
	MLLU	昼
	MLSU	夕
NO	—	観察項目
	※	尿量 ※第2階層のコード値は MEDIS-DC 看護実践マスター観察編のコードを使用する
	※	ドレーン排液量 ※第2階層のコード値は MEDIS-DC 看護実践マスター観察編のコードを使用する
	※	便回数 ※第2階層のコード値は MEDIS-DC 看護実践マスター観察編のコードを使用する
	※	（個別の観察項目） ※第2階層のコード値は MEDIS-DC 看護実践マスター観察編のコードを使用する
NC	—	ケア項目
	NC01 ※	清潔ケア ※第2階層のコードは MEDIS-DC 看護実践マスター行為編の「A001:日常生活ケア」下の第2階層のコードを使用する

値		内容（表示名）
第1階層	第2階層	
	NC02 ※	整容・更衣ケア ※第2階層のコードは MEDIS-DC 看護実践マスター行為編の「A001:日常生活ケア」下の第2階層のコードを使用する
	NC03 ※	栄養・食事ケア ※第2階層のコードは MEDIS-DC 看護実践マスター行為編の「A001:日常生活ケア」下の第2階層のコードを使用する
	NC04 ※	排泄ケア ※第2階層のコードは MEDIS-DC 看護実践マスター行為編の「A001:日常生活ケア」下の第2階層のコードを使用する
	NC05 ※	起居動作支援 ※第2階層のコードは MEDIS-DC 看護実践マスター行為編の「A001:日常生活ケア」下の第2階層のコードを使用する
	NC06 ※	移動ケア ※第2階層のコードは MEDIS-DC 看護実践マスター行為編の「A001:日常生活ケア」下の第2階層のコードを使用する
	NC07 ※	安全ケア ※第2階層のコードは MEDIS-DC 看護実践マスター行為編の「A001:日常生活ケア」下の第2階層のコードを使用する
	NC08 ※	睡眠ケア ※第2階層のコードは MEDIS-DC 看護実践マスター行為編の「A001:日常生活ケア」下の第2階層のコードを使用する
	NC09 ※	苦痛の予防・軽減ケア ※第2階層のコードは MEDIS-DC 看護実践マスター行為編の「A001:日常生活ケア」下の第2階層のコードを使用する
	NC10 ※	呼吸ケア ※第2階層のコードは MEDIS-DC 看護実践マスター行為編の「A001:日常生活ケア」下の第2階層のコードを使用する
	NC11 ※	循環ケア ※第2階層のコードは MEDIS-DC 看護実践マスター行為編の「A001:日常生活ケア」下の第2階層のコードを使用する
	NC12 ※	病床・室内環境ケア ※第2階層のコードは MEDIS-DC 看護実践マスター行為編の「A001:日常生活ケア」下の第2階層のコードを使用する
	NC13 ※	意思疎通ケア ※第2階層のコードは MEDIS-DC 看護実践マスター行為編の「A001:日常生活ケア」下の第2階層のコードを使用する
	NC14 ※	発育・発達ケア ※第2階層のコードは MEDIS-DC 看護実践マスター行為編の「A001:日常生活ケア」下の第2階層のコードを使用する
	NC15 ※	心理的ケア ※第2階層のコードは MEDIS-DC 看護実践マスター行為編の「A001:日常生活ケア」下の第2階層のコードを使用する

値		内容（表示名）
第1階層	第2階層	
	NC16 ※	リフレッシュケア ※第2階層のコードは MEDIS-DC 看護実践マスター行為編の「A001:日常生活ケア」下の第2階層のコードを使用する
	NC17 ※	行動制限時のケア ※第2階層のコードは MEDIS-DC 看護実践マスター行為編の「A001:日常生活ケア」下の第2階層のコードを使用する
EG	—	教育・指導・説明
	EGNC	栄養指導
	EGCS	指導
	EGIC	IC
	EGEP	看護 E プラン
AL	—	活動・安静度
MD	—	医療文書

(3) タスクコード名称 (項番: 1-5-2-3-2-5-7-2)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パス データ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/assessment/task						タスク情報
タスクコード・名称	Code	1..1	1..1	1..1		タスクを識別するコード・名称 本バージョン時点において標準または統一されたコード体系が定まっていないことから、施設等のローカル内でタスクを識別するコード・名称を定め、ローカルのコード体系で設定する。
コード	@code	1..1	1..1	1..1	例) 0300070	タスクコード
名称	@displayName	1..1	1..1	1..1	例) 拡張期血圧	タスク名称
コード体系	@codeSystem	1..1	1..1	1..1	例) LOCAL	対応するコード体系 OID またはローカル内でコード体系が識別できるシンボル値

XML 記述例

```
<code code="0300070" displayName="拡張期血圧" codeSystem="LOCAL"/>
```

解説

code 属性には、施設内のタスクを一意に特定する施設内のローカルコードを格納すること。

displayName 属性には、code 属性に格納した施設内のローカルコードを持つタスクの診療録上の表記内容を格納すること。

codeSystem 属性には、code 属性に格納した施設内のローカルコードを持つタスクの種別番号を格納すること。

※codeSystem 属性は、ローカル上の種別番号に対応したマッピングマスタを作成することで外部送信用の値に変換可能となることを想定している。または、OID を設定してもよい。

(4) 予定日時 (項番: 1-5-2-3-2-5-7-3)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/assessment/task						タスク情報
予定日時	planDate	出力対象外	出力対象外	0..1	例) 20230406	YYYYMMDD[HH[MM[SS]]] 表記 時刻を設定できない場合は省略してもよい。※表記の [] 内の時分秒は省略可能な形式を意味する。

XML 記述例

```
<planDate>20230406</planDate>
```

解説

該当タスクの予定日時を設定する。

予定日時に設定する値に関して、時間 (HH)、分 (MM) および秒 (SS) は省略が可能。

(5) 実施日時 (項番: 1-5-2-3-2-5-7-4)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/assessment/task						タスク情報

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
実施日時	performedDate	出力対象外	出力対象外	0..1	例) 20230406195534	YYYYMMDD[HH[MM[SS]]] 表記時刻を設定できない場合は省略してもよい。※表記の [] 内の時分秒は省略可能な形式を意味する。

XML 記述例

```
<performedDate>20230406195534</performedDate>
```

解説

該当タスクの実施日時を設定する。

実施日時に設定する値に関して、時間 (HH)、分 (MM) および秒 (SS) は省略が可能。

(6) オーダ種別 (項番: 1-5-2-3-2-5-7-5)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/assessment/task						タスク情報
オーダ種別	orderType	出力対象外	出力対象外	0..1	予約項目のため未定	(予約項目) 医師によるオーダの場合のオーダを識別するコード

XML 記述例

予約項目のため記述例なし

解説

説明・備考に記載のとおりであり追加の解説はない。

(7) タスク実施 (項番: 1-5-2-3-2-5-7-6)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パス データ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/assessment/task						
タスク実施	execution	出力対象外	出力対象外	0..1	タスクの実施状況	

解説

oatUnit に属するタスクの実施状況を設定する。

本メッセージ内に設定する要素は実施状況 (項番 : 1-5-2-3-2-5-7-6-1) ~ 実施者 (項番 : 1-5-2-3-2-5-7-6-2) を参照のこと。

(8) 実施状況 (項番: 1-5-2-3-2-5-7-6-1)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/assessment/task/execution						タスクの実施状況
実施状況	status	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 1	実施状況を表す区分。付録1. コード一覧「実施状況」より設定する。 例) 1: 実施、2: 未実施

XML 記述例

<pre><status>1</status></pre>

解説

実施状況には、表 6-5-2-1-2-1-1-2 (ePath 仕様書の付録1. コード一覧「実施状況」と同一) で定義された値を設定する。

表 6-5-2-1-2-1-1-2 実施状況

値	内容 (表示名)
1	実施
2	未実施

(9) 実施者 (項番: 1-5-2-3-2-5-7-6-2)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/assessment/task/execution						タスクの実施状況
実施者	author			1..1		観察項目の実施者
実施日時	@datetime	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 20230406195500	YYYYMMDD[HH[MM[SS]]] 表記時刻を設定できない場合は省略してもよい。※表記の [] 内の時分秒は省略可能な形式を意味する。
実施者名	@name	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 看護 花子	実施者名
実施者職種	@job	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 看護師	実施者の職種

XML 記述例

```
<author datetime="20230406195500" name="看護 花子" job="看護師"/>
```

解説

観察項目の実施者の氏名と職種、および実施日時を設定する。

職種については標準化された名称が定義されていないため、施設等でローカルに定めた名称を設定する。

実施日時に設定する値に関して、時間 (HH)、分 (MM) および秒 (SS) は省略が可能。

(10) XML 記述例 (項番 : 1-5-2-3-2-5-7~1-5-2-3-2-5-7-6-2)

<適用後パスデータの場合>

```
<task>
  <category>TPTR</category>
  <code code="0300070" displayName="拡張期血圧" codeSystem="LOCAL"/>
  <planDate>20230406</planDate>
  <performedDate>20230406195534</performedDate>
  <execution>
    <status>1</status>
    <author datetime="20230406195500" name="看護 花子" job="看護師"/>
  </execution>
</task>
```

6.5.2.1.2.2. 評価

(1) 評価 (項番: 1-5-2-3-2-6)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/outcome/						アウトカムの情報
評価	judgement	出力対象外	出力対象外	0..1		評価情報

解説

アウトカムの評価に関する情報を設定する。

本メッセージ内に設定する要素は評価状況 (項番 : 1-5-2-3-2-6-1) ~ 記録者 (項番 : 1-5-2-3-2-6-3) を参照のこと。

(2) 評価状況 (項番: 1-5-2-3-2-6-1)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/outcome/judgement						評価
評価状況	status	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 1	アウトカムに対する評価状況を表す区分。付録1 コード一覧「評価状況」に定めるコードを設定する。 例) 1: 達成、2: 未達成 (バリエンス)、3: 未評価

XML 記述例

```
<status>1</status>
```

解説

評価状況には、表 6-5-2-1-2-2-1 (ePath 仕様書の付録 1. コード一覧「評価状況」と同一) で定義された値を設定する。
なお、アウトカムの評価状況は、観察項目にあらかじめ設定された適正值 (基準) による自動判定などの機能を実装することで簡略化することを推奨する。

表 6-5-2-1-2-2-1 評価状況

値	内容 (表示名)	備考
1	達成	
2	未達成 (バリエンス)	観察項目実施の評価状況において、1 つでも適正值外がある場合は、「2」未達成 (バリエンス) とする。
3	未評価	「未評価」を電子カルテに入力する運用がない場合は、<judgement>要素を出力しない実装でも構わない。

(3) バリエーション記録 (項番: 1-5-2-3-2-6-2、1-5-2-3-2-6-2-1~1-5-2-3-2-6-2-4)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/outcome/judgement						評価
バリエーション記録	variance	出力対象外	出力対象外	0..1		未達成時の記録 達成されたアウトカムが「2:未達成」の場合のみ設定する。
S	subjective	出力対象外	出力対象外	0..1	例) 【観察項目実績値】疼痛 (NRS) : 6 疼痛性質: ズキズキ	フリーテキスト
O	objective	出力対象外	出力対象外	0..1	例) バイタルサイン(血圧:127/83、脈拍:77回/分、呼吸数 17回/分)	フリーテキスト
A	assessment	出力対象外	出力対象外	0..1	例) 痰の貯留と呼吸筋力の低下、不効率な呼吸法により呼吸困難感あり	フリーテキスト
P	plan	出力対象外	出力対象外	0..1	例) 薬剤使用 ロキソプロフェン錠 60mg 1錠	フリーテキスト

XML 記述例

```

<variance>
  <subjective>【観察項目実績値】疼痛 (NRS) : 6 疼痛性質: ズキズキ 【観察項目実績値】疼痛 (NRS) : 6 タイミング: 安静時体動時</subjective>
  <objective>バイタルサイン(血圧:127/83、脈拍:77回/分、呼吸数 17回/分)</objective>
  <assessment>痰の貯留と呼吸筋力の低下、不効率な呼吸法により呼吸困難感あり</assessment>
  <plan>薬剤使用 ロキソプロフェン錠 60mg 1錠</plan>
</variance>

```

解説

バリエーション記録は、経過記録と同じ扱いで記録できること、または保存できることを推奨する。

(4) 記録者 (項番: 1-5-2-3-2-6-3)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/oatUnit/outcome/judgement						評価
記録者	author	出力対象外	出力対象外	1..1		評価の記録者
記録日時	@datetime	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 20230405074600	YYYYMMDD[HH[MM[SS]]] 表記 時刻を設定できない場合は省略してもよい。 ※表記の [] 内の時分秒は省略可能な形式を意味する。
記録者名	@name	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 看護 花子	記録者名
記録者職種	@job	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 看護師	記録者の職種

XML 記述例

```
<author datetime="20230405074600" name="看護 花子" job="看護師"/>
```

解説

評価の記録者の氏名と職種、および記録日時を設定する。

職種については標準化された名称が定義されていないため、施設等でローカルに定めた名称を設定する。

記録日時に設定する値に関して、時間 (HH)、分 (MM) および秒 (SS) は省略が可能。

© JAHIS 2023

なお、アウトカムの評価状況を自動判定する機能の実装は任意であるが、実装する場合は例えば下記のような実装例が考えられる。

<評価状況が「1」達成の場合>

(例) 該当のアウトカム内に存在する観察項目実施の評価者の datetime 属性が最も遅い datetime 属性、name 属性、job 属性を設定する。

<[評価状況]が「2」未達成 (バリエーション) の場合>

(例) 該当のアウトカム内に存在する観察項目実施の評価状況が「2」(未達成) のもので、評価者の datetime 属性が最も早い datetime 属性、name 属性、job 属性を設定する。

<[評価状態]が「3」未評価の場合>

<judgement>要素自体の出力が省略可能であるが(表 6-5-2-1-2-2-1 の未評価)、出力する場合には datetime 属性、name 属性、job 属性には値を設定する。name 属性、job 属性に設定する値は「記載なし」「指定なし」などデータがないことがわかる固定値を設定する。

(5) XML 記述例 (項番 : 1-5-2-3-2-6~1-5-2-3-2-6-3)

<適用後パステータ、評価状況が「1」(達成) の場合>

```
<judgement>
  <status>1</status>
  <author datetime="20230405074600" name="看護 花子" job="看護師"/>
</judgement>
```

<適用後パステータ、評価状況が「2」(未達成) の場合>

```
<judgement>
  <status>2</status>
  <variance>
    <subjective>【観察項目実績値】疼痛(NRS):6 疼痛性質:ズキズキ【観察項目実績値】疼痛(NRS):6 タイミング:安静時体動時</subjective>
    <objective>バイタルサイン(血圧:127/83、脈拍:77回/分、呼吸数17回/分)</objective>
  </variance>
</judgement>
```

```

<assessment>痰の貯留と呼吸筋力の低下、不効率な呼吸法により呼吸困難感あり</assessment>
<plan>薬剤使用 ロキソプロフェン錠 60mg 1錠</plan>
</variance>
<author datetime="20230405074600" name="看護 花子" job="看護師"/>
</judgement>

```

<適用後パスデータ、評価状況が「3」（未評価）の場合>

```

<judgement>
<status>3</status>
<author datetime="20230405074600" name="記載なし" job="指定なし"/>
</judgement>

```

6.5.2.2. 総合評価

(1) 総合評価（項番:1-5-2-4）

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event						病日または同一病日内でのイベントでのOAT ユニット集合体。同一病日において術前・術中・術後等のイベントが存在し得る。主要イベントとは病日で紐づく。 ※要素の出現順が時系列を表す。
総合評価	compAssessment	出力対象外	出力対象外	1..1		病日毎の医師の総合評価

解説

病日毎の医師の総合評価に関する情報を設定する。

本メッセージ内に設定する要素は記録日時（項番：1-5-2-4-1）～記録者職種（項番：1-5-2-4-2）を参照のこと。

(2) 評価（項番:1-5-2-4-1）

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/ePathApply/event/compAssessment						
評価	text	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 異常所見なし	評価

XML 記述例

```
<text>異常所見なし</text>
```

解説

病日毎に医師が入力した総合評価をフリーテキストで設定すること。入力なしの場合は例えば「未評価」「評価なし」などの文字列を設定する。

(3) 記録者 (項番:1-5-2-4-2)

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パス データ		
/ePathMessage/ePathApply/event/compAssessment						病日毎の医師の総合評価
記録者	author	出力対象外	出力対象外	1..1		記録者
記録日時	@datetime	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 20230403184600	YYYYMMDD[HH[MM[SS]]] 表記時刻を設定できない場合は省略してもよい。※表記の [] 内の時分秒は省略可能な形式を意味する。
記録者名	@name	出力対象外	出力対象外	1..1	例) JAHIS 太郎	記録者名
記録者職種	@job	出力対象外	出力対象外	1..1	例) 医師	記録者の職種

XML 記述例

```
<author datetime="20230403184600" name="JAHIS 太郎" job="医師"/>
```

解説

総合評価を行った者の氏名と職種、および総合評価の記録を行った日時を設定する。

職種については標準化された名称が定義されていないため、施設等のローカルな名称を設定する。

記録日時に設定する値に関して、時間 (HH)、分 (MM) および秒 (SS) は省略が可能。

name 属性、job 属性が存在しない場合は、「記載なし」「指定なし」などデータがないことがわかる固定値を設定する。

(4) XML 記述例 (項番 : 1-5-2-4~1-5-2-4-2)

<適用後パステータの場合>

```
<compAssessment>  
  <text>異常所見なし</text>  
  <author datetime="20230403184600" name="JAHIS 太郎" job="医師"/>  
</compAssessment>
```

付録—1. コード体系 OID 一覧

ePath 仕様書で定義されているコード体系 OID を表 7-1 (OID は ePath 仕様書の付録 1. コード一覧の各コード体系 OID と同一) に示す。

表 7-1 コード体系 OID

名称	コード体系 OID
標準クリニカルパスコード	1.2.392.200250.2.2.50.10
パス状態区分	1.2.392.200250.2.2.50.20
医療機関コード	1.2.392.200250.2.2.1
性別	2.16.840.1.113883.5.1
診療科	1.2.392.200250.2.2.2
YN 識別	1.2.392.200250.2.2.50.60
パス終了区分	1.2.392.200250.2.2.50.70
MEDIS-DC 標準病名マスター管理番号	1.2.392.200119.4.101.2
ICD10 標準病名コード	2.16.840.1.113883.6.3
BOM 大分類コード	1.2.392.200250.3.2.200.10
BOM 中分類コード	1.2.392.200250.3.2.200.20
BOM アウトカムコード	1.2.392.200250.3.2.200.30
BOM 観察項目分類コード	1.2.392.200250.3.2.200.40
BOM 観察項目コード	1.2.392.200250.3.2.200.50
タスク分類	1.2.392.200250.2.2.50.150.1 (第 1 階層)
	1.2.392.200250.2.2.50.150.2 (第 2 階層)
実施状況	1.2.392.200250.2.2.50.160
評価状況	1.2.392.200250.2.2.50.170

付録—2. 参考文献

- 一般社団法人日本医療情報学会：ePath のデータ要素と構造に関する仕様書（Ver.1.0.1）
<https://www.jami.jp/>
- ePath プロジェクト：電子クリニカルパス作成・運用マニュアル Version 1.0
<https://e-path.jp/manual.pdf>
- ePath プロジェクト：標準クリニカルパスコードについて 第1版
https://e-path.jp/img/news/2021/ePath_passcode.pdf
- 一般社団法人日本クリニカルパス学会（監修）：クリニカルパス概論 -基礎から学ぶ教科書として，サイエンティスト社，2015
<https://www.jscp.gr.jp/publ.html#sub02>
- 一般社団法人日本クリニカルパス学会（監修）：クリニカルパス用語解説集 第2版，サイエンティスト社，2019
<https://www.jscp.gr.jp/publ.html#sub01>
- 一般社団法人日本クリニカルパス学会（監修）：現場で使えるクリニカルパス実践テキスト 第2版，医学書院社，2012
<https://www.jscp.gr.jp/publ.html>
- 一般社団法人日本クリニカルパス学会（監修）：患者状態アウトカム用語集ベーシックアウトカムマスター
<https://www.jscp.gr.jp/bom.html>

付録—3. 作成者名簿

作成者（社名五十音順）

高山 秀昭	株式会社SBS情報システム
塚田 智	亀田医療情報株式会社
中村 友哉	株式会社シーエスアイ
永田 有希	株式会社シーエスアイ
新林 拓磨	株式会社ソフトウェア・サービス
根来 亮介	株式会社ソフトウェア・サービス
松本 崇志	株式会社ソフトウェア・サービス
岡田 靖士	日本電気株式会社
駒井 理弘	日本電気株式会社
杉原 志穂	日本電気株式会社
高瀬 博之	日本電気株式会社
木村 雅彦	日本アイ・ビー・エム株式会社
井上 貴宏	富士通Japan株式会社
太田 聡司	富士通Japan株式会社
道家 直之	富士通Japan株式会社
越島 康介	富士フイルム株式会社
中村 道範	株式会社両備システムズ

謝辞

本技術文書の作成にご協力をいただいた、
日本医療情報学会・日本クリニカルパス学会合同委員会の皆様に深く感謝いたします。

改定履歴		
日付	バージョン	内容
2023/10/10	Ver. 1.0	初版

(JAHIS 技術文書 23-102)

2023年10月発行

JAHIS ePath 実装ガイド Ver.1.0

発行元 一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会
〒105-0004 東京都港区新橋2丁目5番5号
(新橋2丁目MTビル5階)

電話 03-3506-8010 FAX 03-3506-8070

(無断複写・転載を禁ず)